真庭市 「二川（ふたかわ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　486 人

○高齢化率　　55.8%

○集 落 数　　22 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市の北部（旧湯原町）、湯原温泉と蒜山高原の中間に位置しており、比較的平坦な地形が多く、地域の総面積は約65平方キロで、東部に湯原ダム湖があります。

平成20年6月に推進組織である「二川ふれあい地域づくり委員会」を立ち上げ、四つの部会を設けて、集落機能再編・強化事業に取り組んできました。平成22年7月には組織を再編して委員数も増員し、より多くの方が役員として活動に携わっています。

「二川地域活性化プラン」にあるように、「みんなの力で地域を元気に！」を合い言葉に、「いつまでも住み続けたい地域 二川」の実現に向けて地域づくりを進めています。

推進組織

二川ふれあい地域づくり委員会

地域の特徴

地域には 22 集落があり、以前から「高齢者福祉のむらづくり事業」や「ふるさと宅配便」に取り組むなど、まとまりの強い地域です。

H30 年度の主な取組

○保健福祉の推進

健康で暮らしやすい地域を目指して、各種団体と協力し、独居老人への配食や老人世帯と地域の子供による交流会を実施したほか、寝たきりの方への訪問を行いました。

○地域の産業振興

二川地域の産業振興とPRを目的に、冬季に餅を中心とした宅配便事業に取り組んでいます。また、宅配事業の出役に対し、賃金も支給しています。

○地域の交流と広報活動

地域外の方との交流を進めるため、春には「第1回二川さくらマーケット」を、夏には「魚のつかみどりin二川」を開催しました。どちらも二川の人口を上回る人出となり、地域に活気が溢れました。また地域内の方に向けては「ふたかわ地域づくり新聞」を毎月発行・全戸配布し、地域行事や地域で活躍する人を紹介することで、地域の一体感醸成に努めています。

○移住者受け入れ体制整備

H29年度に二川地域全域で行った空き家の外観調査（70戸）のうち、所有者の同意の得られた8戸についての内観調査を実施しました。そのうち7戸について所有者から地域での活用の了承を得ており、活用策や移住希望者の受入窓口についての検討を進めています。

美作市 「旧梶並小学校区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　601 人

○高齢化率　　61.8%

○集 落 数　　6 集落

（H31.1.1）

取組の経過

美作市の北西部に位置し、地域のほとんどが山林で占められており、吉野川の支流である梶並川・東谷川の流れに沿って、集落・田畑が形成されています。

地域内の６集落のうち４集落が高齢化率５０％を超え、過疎化・高齢化により閉塞感が高まっていることから、地域内の連携をより強化することで様々な課題の解決につなげたいと思っています。

自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、梶並地区活性化推進委員会を発足しました。

推進組織

梶並地区活性化推進委員会

地域の特徴

地域全体で休耕荒廃地を利用した特産品栽培（蕎麦、蒟蒻、桑等）に取り組むことにより、自主財源を確保し、自立した地域づくりを目指します。

Ｈ３０年度の主な取組

○休耕荒廃地の復旧の第一歩！　蕎麦、蒟蒻芋栽培

地域内に多く点在する休耕荒廃地の復旧の第一歩として、蕎麦　蒟蒻芋栽培を実施しています。

蒟蒻芋は、刺身蒟蒻として製品化を行い市内だけではなく、大阪での直売所で販売を行いました。結果は好評で、安定した数量の販売が出来るようになりました。

○お試し住宅事業を活用して定住促進

美作市が整備したお試し住宅入居者との交流を図り、田舎暮らしへのアドバイスなどを通じて定住促進を行っています。

現在、９世帯が定住し定住率は６割になっています。

○梶並空き家管理サービス（KAKS）

空き家になっている家を、サービスに登録していただければ、遠くにいても安心して家を守る事が出来ます。

美咲町 「倭文西（しとりにし）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　796 人

○高齢化率　48.6%

○集 落 数　51 集落

（H31.1.1）

取組の経過

標高２００～５００ｍの山間丘陵地域にあり、農地は山間・谷間を利用した棚田、急傾斜地の畑が大半。まきばの館（岡山県総合畜産センター）が観光名所。

道路の草刈り等これまで集落内で行ってきた様々な活動を単独の集落で続けていくことが困難になってきており、平成２０年度より、旧村範囲というこれまでの集落単位よりも広域な区域での地域運営組織を整備し、住民へのアンケート調査や課題の解決策の検討を重ね、集落機能再編・強化のための「実施計画書」を策定しました。今後も、実施計画内容を点検し、地域全体で人づくり・地域づくり・環境づくり・産業興しに計画的に取り組み、「元気な倭文西」を目指していきます。

推進組織

倭文西まちづくり協議会

地域の特徴

Ｈ３０年度の主な取組

○どんとこい収穫祭

地域内の結束と地域外に向け本地域をＰＲするとともに、都市住民との交流のため開催。イベントを通して、地域内外の輪を広げていき、地域活性化を目指していきたいと考えています。

○米粉を活用した人の輪拡大計画

パン工房「やまて」を拠点とした地域の特産品開発に取り組むとともに、普及拡大に努めています。毎週火・木・土曜日に米粉パンの製造・販売。また、米粉うどんは講習会の開催やイベントでの試食販売などを行っています。

○歴史・文化の保存・継承

各地域に継承される大祭等への参加、また、地域に存在した山城講座を開催するなど、歴史・文化の継承や保存に努めています。

④

和気町 「丸山･南山方」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　91 人

○高齢化率　　70.3%

○集 落 数　　2 集落

（H31.1.1）

取組の経過

標高約４３０ｍの高台地帯に位置し、自然豊かな中山間地域ですが、高齢化が進み、耕作放棄地が増加し、農地の保全、文化伝統行事がままならない状況であり、集落機能を取り戻すための地域再生のシステムや実践活動が急務の課題となっています。

このため、二つの集落（行政区）が連携し、平成２０年５月に丸山・南山方区集落機能再編強化委員会（通称「やまびこ会」）を結成し、ワークショップでの話し合いを重ねて「集落機能再編強化プラン」を策定しました。「すばらしい自然」という地域の財産を最大限活用した地域づくりを目指しています。

推進組織

丸山・南山方区集落機能再編強化委員会（通称「やまびこ会」）

地域の特徴

県下でも高齢化率の高い高原の山間地ですが、最近豊かな自然環境や景観を求めて都市部からの定住者が増えています。耕作放棄地対策や、みんなで支え合う元気な地域づくりを住民全体で共有し取り組んでいます。

Ｈ３０年度の主な取組

○初日の出を拝す会

開催日：平成３１年１月１日　参加人数：約２００名

地域の伝統を受け継いでの開催で、地域の企業などの協力でなんとか続けていますが、高齢化のため、負担感もあり新たな担い手の確保や地域を超えてのネットワークも必要と考えています。

吉備中央町「旧高富小学校区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　195 人

○高齢化率　　59.0％

○集 落 数　　3 集落

（H31.1.1）

取組の経過

吉備中央町の北東部、岡山市（建部町）と美咲町に隣接する高原地帯に位置します。高齢者世帯や一人暮らし老人世帯が多く、行政、医療機関、教育施設や店舗などから離れていることから、生活交通手段の確保が大きな課題となっています。

このような状況から、平成２０年５月に「みんなで支え合う地域づくり協議会」を組織し、地域の課題解決に向けた様々な試行的取組を実施するとともに、中山間地域等直接支払制度や農地・水・環境保全向上対策事業を通じて農地の維持管理にも取り組んできました。

平成２２年３月に地域の課題解決に向けた「活性化計画」を策定し、「自分たちの地域は自分たちの手で」「最善の策より次善の策で素早い実践」「GENKAI(限界)集落から GENKI(元気)集落へ」を合言葉に、新たなチャレンジを始め今年で９年目を迎えます。

推進組織

旧高富小学校区みんなで支え合う地域づくり協議会

地域の特徴

地域の高齢化が進む中、買い物ツアーや地域内のパトロールを含め、高齢者の見守りを強化しています。

Ｈ３０年度の主な取組

○買いものツアーの実施

交通手段を持たない地域住民の生活維持に関する買い物を支援するため、町外の大型スーパーへの買い物送迎支援を実施しました。（年２回（盆、年末）延べ約２５人参加）

○一宮高校体験学習受け入れ

一宮高校の生徒４３人を受け入れ、地域での共同作業を実施、中山間地域の実情を知ってもらうとともに、交流を行いました。

○太陽光発電設備運営

自主財源確保のため、太陽光発電設備を設置し運営を行っています。

○自主防災部の活動

ＡＥＤ講習会や防災訓練への参加をはじめ、地域ぐるみで防災力を高める活動を行っています。（それぞれ約２０人参加）

⑥

真庭市 「富原地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　1125 人

○高齢化率　52.3%

○集 落 数　42 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市の西部（旧勝山町）に位置し、新見市と隣接しています。昔から林業が盛んで、杉や檜の植林が多く谷筋にある少ない平坦地に集落が点在しています。
平成 22 年 7 月に推進組織である「とみはら元気集落推進委員会」をお願い致します。立ち上げ、現在は地域交流事業を中心に活動を行っています。

推進組織

とみはら元気集落推進委員会

地域の特徴

７地区の各コミュニティ協議会・富原福祉のむらづくり推進委員会・富原公民館・あゆみ会・お茶祭り実行委員会・老人クラブ連合会・ＮＰＯ法人とみはらむら等多くの団体が横の連絡を取りながら、様々な活動・事業を展開しています。

Ｈ３０年度の主な取組

「安全・安心に暮らせる地域づくり」を目指し、他の各種団体と連絡を密にして、富原地区の課題の解消に取り組んでいます。
今年度も、地域情報の共有化を図る為に広報誌の発行（年２回）、家にこもりがちの高齢者の方を中心に「お出かけ富原元気ツアー」の実施、JR 富原駅周辺の「花いっぱい運動」の実施、地域内の交流と親睦を図る為に「バレーボール大会」「三世代交流グラウンドゴルフ大会」「ソフトバレーボール大会」「新年互礼会」の実施しました。交流事業には多くの参加者があり、コニュニティの推進に多大な効果がありました。
平成 26 年 4 月に結成した「なんでも助け合い隊」は平成 27 年 6 月に「ＮＰＯ法人とみはらむら」となり、生活支援サービス・移送サービスを中心に活動を展開しています。

真庭市（うえだ）「上田地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　261 人

○高齢化率　　62.1％

○集 落 数　　19 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市南部(旧落合町)に位置し、標高４００ｍの山上にあり、山間に棚田・畑が点在し林野率８０％を超える地域で、近年、急速に過疎・高齢化が進行しています。

地域内の「花の山寺・普門寺」には、多くの来場者があり、平成７年より「上田むらおこしの会」が主体となり、「花の山寺春まつり」「花の山寺あじさい祭り」「花の山寺秋の桜と紅葉祭り」等々年間を通じ地域をあげてイベントを開催しています。

また、高齢者、若者や子どもを対象とした総合的な体験学習等、他に無い地域づくりにも取り組みたいと考えています。近年外国人の方も多く訪れています。

推進組織

上田むらおこしの会

地域の特徴

地域でのイベント時には「花見庵」で手打ちそば、「門前茶屋」でみそ団子、地域の特産品等を販売しており、新しい商品の研究開発などにも取り組んでいます。

Ｈ３０年度の主な取組

○花の山寺春まつり

４月下旬からのGW中に開催しています。桜や新緑、山つづじ、藤の花、普門寺の石楠花と、次々に咲く花々を訪れる人々に楽しんでいただきました。

○花の山寺あじさい祭り

６月に高校生や大学生と一緒に準備と周辺の清掃をしました。約２千株の紫陽花の見頃は６月中旬から下旬までと比較的長く、好評の山菜天ぷら付そば等の食事を提供し、売店では、地域の特産品、草だんごなどの販売を行いました。年々訪れる人も増えており、７月には花切りと剪定を実施し、環境整備や花の手入れを行っています。

○花の山寺桜と紅葉祭り

「桜ともみじ祭り」は、毎年１１月の第一日曜日に開会式典を行い、太鼓や踊り等で祭りに花を添えて頂き、一日イベントを楽しんでいただいています。今では、年間約一万人を超える大勢の人が訪れ、地域の活性化に繋がってい

ます。旧上田小学校の利活用に取り組んでいます。

⑧

真庭市 「別所（べっしょ）小学校区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　216 人

○高齢化率　　58.8%

○集 落 数　　9 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市の南西部(旧落合町)に位置し、標高２７０m～５００mのなだらかな傾斜地に集落が点在しており、自家消費中心の農林業が主体の地域です。

地域のふれあい集会では、三世代交流事業として伝承の遊びやおもちゃづくりなど、お年寄りから若者・子ども達に至るまで、地域のつながりを持つように心がけたイベントを実施しており、今後も地域全体で協力し、地域づくり、人づくりを進めていきます。

推進組織

別所小学校学区をよくする会

地域の特徴

地域内には、県下一の巨木、推定樹齢千年以上と云われる「醍醐桜」があり、春の開花時期から冬の雪景色まで年間７～８万人の来場者を歓迎しながら、地域内で作った手作りこんにゃく等の加工・販売を行っています。

Ｈ３０年度の主な取組

○農村レストラン「醍醐桜村」

県天然記念物・ 醍醐桜周辺の住民が農村一日レストラン「醍醐桜村」をコミュニティーハウス「くるみの館」で１日限定でオープンし、地元食材をふんだんに使った会席料理を家族連れらに振る舞いました。地元産のコンニャク芋や白大豆を使ったメニューを振る舞い持続可能な取り組みとして継続しています。

○地域交流事業

ふれあい集会（魚のつかみ取り、そーめん流し等）、地域運動会、文化祭、秋季大祭等を実施し、多くの方が参加し交流することができました。これらのイベントには、帰省中の親族も加わり賑やかなものとなりました。

今後も地域全体で協力して、地域づくり、人づくりを進め地域の『絆』を深めた。

○ 地域活性化、環境整備事業

地域資源の醍醐桜周辺や市道の草刈作業を地域別に全戸参加で実施しました。

○地域資源の保存と活用事業

地域の資源「醍醐桜」を活用しようと、醍醐桜のお土産としてせんべいを作り、駐車場代の領収書として「ご当地領収書」を作成した。

井原市 「池井（ちせい）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　112 人

○高齢化率　　66.1％

○集 落 数　　12 集落

（H31.1.1）

取組の経過

池井地区は井原市北西部の標高４００ｍほどの山間部に位置し、零細な農家が点在しており、地域内のほとんどが小規模高齢化集落となっています。地域の特産品として、粒子の細かい赤土で栽培された味と香りのよい「明治ごんぼう」があります。

平成２０年度から集落機能の再編・強化に取り組むため、「自分たちの地域は自分たちで創り、守り、育てる」という目的を掲げ地域運営協議会を設置し、アンケート調査から明らかになった地域課題を確認し、解決に向けた取り組みを展開しています。

推進組織

池井地区地域推進協議会

地域の特徴

都市住民との農業体験交流事業“池井の恵み「いただきまーす」”を実施し、都市住民との交流により、地域住民が地域の宝を再認識するとともに元気をもらい、地域活性化に向けた意識の高揚につながっています。

Ｈ３０年度の主な取組

○農業体験交流事業“池井の恵み「いただきまーす」”

地域住民の日常的な農作業を題材として、都市住民との交流を図ることを目的とした事業です。参加者がさつま芋のオーナーとなり自ら植え、育った芋の収穫、池井地区の食材を使った食事等を通して、交流を深めています。

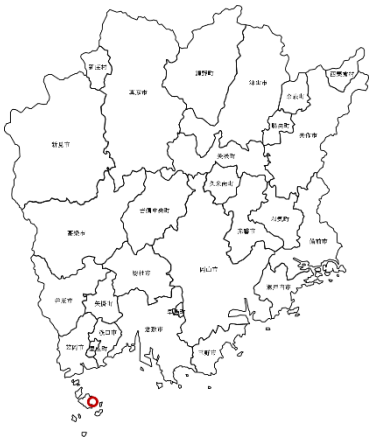
平成２１年度からの取り組み以降、着実にリピーターを獲得し、継続的な交流、事業の実施が図れています。

≪農業体験交流事業　体験メニュー≫

・芋植え【6/16 開催】
　参加人数　55 名（岡山市、倉敷市、総社市など）
・芋掘り【10/13 開催】
　参加人数　75 名（岡山市、倉敷市、総社市など）
・しめ飾りづくり・餅つき【12/8 開催】
　参加人数　22 名（倉敷市、総社市など）

笠岡市 「北木島町（きたぎしまちょう）」の取組概要

地域の概要



○人　　口　　798 人

○高齢化率　　71.2%

○集 落 数　　4 集落

（H31.1.1）

取組の経過

笠岡諸島の島のなかで最も面積が大きく、４つの集落で構成しています。

採石・石材加工業、漁業、旅館・民宿などが主な産業でしたが、高齢化による後継者不足、安価な外国産石材の流通、観光客の減少等により各産業とも衰退傾向にあります。

現在まで、北木島の島民で組織する「ＮＰＯ法人かさおか島づくり海社北木島支社」において、北木島の特徴を生かした「島弁」の開発・販売や、増加する高齢者のための介護保険事業の開設・運営や、買い物支援などを進めてきました。

現在、学校跡地を地域の生活基盤の場となる拠点と位置づけ、みんなで助け合い、安全・安心に生活できる地域・環境づくりを検討する中で，地域主体で見守り等を行えるシステムづくりを構築するために専門の講師を呼び研修会を開催し地域に即したシステム構築を図っていきます。

また、住民と行政が協働して、地域の課題を解決し活気あるまちづくりを推進するため、平成２４年１月に「北木島まちづくり協議会」を設立して取組を進めています。

推進組織

北木島まちづくり協議会

地域の特徴

石材や漁業などの主産業が衰退し人口減少や少子高齢化が進んでいますが、４つの集落が力を合わせて地域の問題を解決し、福祉事業や生活の支援に取り組んでいます。

Ｈ３０年度の主な取組

○北木島まちづくり協議会

地域の問題解決や生活環境の整備に向けて協議を行い、「花いっぱい運動」「老人見守り隊」「海岸等一斉清掃」などの事業を計画・実行しています。

また「自主防災・安心安全なまちづくり」事業として防災訓練を行い、島民の災害に対する意識の向上を図りました。

津山市 「阿波（あば）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　505 人

○高齢化率　　46.1％

○集 落 数　　8 集落

（H31.1.1）

取組の経過

中国山地の中腹にあり、四方を１，０００m級の山に囲まれています。全面積の９４％が山林で占められており、集落には茅葺屋根の民家、道端には水車が残るのどかな風景の広がる地域です。

平成２０年度から津山市の「住民自治協議会事業」に取り組んでおり、平成２２年度に、環境に特化したムラづくりとして「エコビレッジ阿波構想」を策定しました。

過疎地有償運送や除雪サービスなどの暮らしの支え合い、エネルギーの地産地消と地域通貨による地域経済の活性化を目的とした木の駅プロジェクトなど、「住み続ける、帰ってくる、住みたくなる阿波地域」を目指して地域づくりに取り組んでいます。

津山市との合併から１０年を機に、住民自らの手で新しい村をつくることを決意し、「あば村宣言」を行いました。

推進組織

あば村運営協議会

地域の特徴

環境に配慮したむらづくり

Ｈ３０年度の主な取組

○小さな拠点づくりによる暮らしの支え合い

見守り、支え合いの取り組みをステップアップ事業として、スーパーと連携した、日常生活用品の戸別配達に加え、10 リットルでの灯油配達事業を試験的に行いました。高齢者の１人暮らし世帯の負担の軽減につながりました。

○都市農村交流事業

移住されてきた方が中心となり、森林公園の中で交流イベント「Bar-Night」を開催したり、地域外の講師を招き、阿波の子どもたちを対象に国際的感覚をもった人材を育成するため、英会話教室を開催したりしました。インバウンドの受け入れに向けて、大人の英会話教室も検討しています。

津山市「新加茂（しんかも）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,235 人

○高齢化率　　44.5％

○集 落 数　　8 集落

（H31.1.1）

取組の経過

旧加茂町の北西部に位置し、北は鳥取県、西は鏡野町に接しています。地域を流れる加茂川は、優れた水環境の保持・保全に努めている地域などに対して国土交通省が認定する「水の郷百選」に選ばれており、水の豊かな美しい地域です。

津山市の「住民自治協議会事業」に取り組み、町内会長、民生委員、消防団、PTA などが構成メンバーとなり地域振興策を検討し、取り組む課題を「住民に危機感を持ってもらう講演会の開催」「地域の新聞発行」「環境美化の取組み」「三世代交流事業」「農地問題の研究」の五つに決定しました。

現在は、総務企画・産業振興・環境福祉・教育文化の４部会を立ち上げて上記の課題や新しい課題について協議し、「だれもが安心して暮らせる地域づくり」に取り組んでいます。

地域の特徴

自然を活かした交流事業

Ｈ３０年度の主な取組

○6/10　第７回ふるさと再発見ウォーク 15 名（継続事業）
○9/15　新加茂地区住民自治協議会設立 10 周年記念「地域づくりフォーラム in 加茂」
○10/6　第９回三世代交流グラウンドゴルフ大会（継続事業）
○10/13 第９回芋掘り交流会約 60 名（継続事業）
○10/19 第９回高齢者交流ふれあいバスツアー37 名（継続事業）
○12/5　平成 30 年度「地域づくり推進賞」受賞（岡山県美作県民局）
○12/13 新加茂地区ふれあいサロン交流会 59 名（継続事業）
○3 月広報紙「ふるさと新加茂 19 号」発行（継続事業）

地域づくりフォーラム in 加茂

「地域づくり推進賞受賞」

津山市「上加茂（かみかも）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　632 人

○高齢化率　　45.1％

○集 落 数　　5 集落

（H31.1.1）

取組の経過

旧加茂町の北東部に位置し、東は鳥取県に接しています。田園地帯の中、JR 因美線が走るのどかな風景は多くの人に愛されています。

町内会役員、子ども会、成年会、老人会、愛育栄養委員などが構成メンバーとなり、地域のにぎわい創出や環境整備など、近隣町内会、と連携し合いながら活動しています。

毎年実施している交流事業は、地域の歴史遺産である矢筈城跡の登山大会、３世代交流グランドゴルフ大会、地域環境整備の推進として、JR 因美線の沿線に彼岸花の植栽や木造駅舎や道路などの清掃活動を実施してきました。大学生との交流も進み、物見地区では「ものみりょくプロジェクト」が、平成２４年に設立した「NPO 法人スマイルちわ」では、中山間地域の課題解決検討会がなされ、課題の掘り起こしや、高齢者の困りごと支援、都市との交流体験事業、地域の人々が集うカフェの開催などに取り組んでおり、現在、第２ステージで、地域マネージャーを置き、上加茂地域全体への取組みの波及を目指しています。

推進組織

上加茂地区住民自治協議会

地域の特徴

安心して暮らせる地域づくり

Ｈ３０年度の主な取組

○「活き活き上加茂　未来へつなぐ我がふるさと」をスローガンにアンケートを実施。そのアンケートをもとに空き家、移動、居場所等の事案に取り組む。

○地域内のお宝スポットを巡る、お宝探しウォーキングを開催。多くの参加者がふるさと再発見しました。

○敬老のつどいの開催
地域内の高齢者の方をお招きし、音楽療法、食事会等で盛り上がりました。

○７月と３月に三世代交流グランドゴルフ大会を開催。子どもからお年寄りの方、各集落間の住民の方々と交流を深めました。

津山市 「広戸西（ひろどにし）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　624 人

○高齢化率　　42.1％

○集 落 数　　5 集落

（H31.1.1）

取組の経過

旧勝北町の北部に位置し、日本の３大局地風の一つとして知られる「広戸風」の名の由来にもなった広戸仙の山麓に広がる地域です。

津山市の「住民自治協議会事業」に取り組み、まず、地域内の２０歳以上全員を対象にアンケート調査を行った後、町内会役員や町内会青壮年部、消防団、老人会、女性会、などを構成メンバーとする協議会を設立しました。

これまで、市町村合併後に中止されていた地元イベント「広戸仙ふれあい登山大会」を復活させ、２００名を超える参加者との交流や、地域への愛着心を育むために広戸西地域のマークを入れた帽子の作成、また地域内の交流を深めるための健康ウォーキングや運動会なども実施してきました。

推進組織

広戸西まちづくり協議会

地域の特徴

地域の支え合い交流活動

Ｈ３０年度の主な取組

○敬老会

地域のお年寄りの健康をお祝いする敬老会を開催しました。

○三世代交流お涼み会

地域のお年寄り・子供たち・帰省客を中心とした三世代交流お涼み会を開催しました。

○男の料理教室

地域の男性を対象に、愛育栄養委員が中心となって男の料理教室を開催しました。

新見市「大佐大井野（おおさおおいの）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　164 人

○高齢化率　　70.7%

○集 落 数　　6 集落

（H31.1.1）

取組の経過

新見市の北東部、標高５００～７００ｍに位置し、鳥取県日野町と岡山県新庄村に隣接する山間部の集落で、主な産業は、農林業（冷涼な気候を生かしたヒメノモチ米の栽培、酪農、スギ・ヒノキの搬出など）となっています。

高齢化が進行していますが、大井野地域振興福祉協議会が地域間を結ぶ枠組みでの活動を行っており、また、人・モノ・自然などの資源がそろっていることから、新たな取組を通じて、より一層の連携強化を図るため、平成２０年度から岡山県集落機能再編・強化事業に着手し、住民アンケート、土地資源調査による課題把握、地域資源の整備や交流人口の拡大のために試行的事業に取り組み、それを踏まえた「活性化プラン」を策定しました。

プランの基本方針である「共助の意識を深め、郷土を愛し、生きがいのある地域づくり」の実現を目指して活動を推進しています。

推進組織

大井野地域振興福祉協議会

地域の特徴

特産品「ヒメノモチ」の販売、都市住民との交流事業

Ｈ３０年度の主な取組

大井野地域には、「御洞（おどう）渓谷・赤松渓谷」や「標高 1,000 メートル級の雄山・雌山（おんぜんめんぜん）」、大佐ダムなどの地域資源が多く存在しており、それらの利活用を図り地域外の方々と交流を推進するため、春と秋のイベントの開催や、特産品「ヒメノモチ」の加工品販売に取り組んでいます。

５月５日の『清流・石楠花（しゃくなげ）まつり』では、渓流トレッキングやます釣り大会、音楽演奏、特産ヒメノモチの餅つき実演販売などを行い、１０月２８日開催の『紅葉まつり』では、音楽演奏やダンス、もち投げのほか、餅つき実演販売などを行いました。

いずれのイベントにおいても、“元気！集落屋台村”を実施し、県外をはじめ地域外からの出店をいただき盛り上げていただきました。年々来場者が増えており、駐車場確保のため、イベント会場を「源流公園広場」に変更して対応しています。

また、正月用もちを中心にもちの加工品の販売を継続的に行っており、平成２８年度には、念願であったもちの加工所の整備が完了し商品デザインも一新しました。今後とも、販路拡大と新メニューの開発などに取り組みながら、「もち」を核に自立した地域を目指し活性化に取り組んでいきます。

笠岡市「真鍋島（まなべしま）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　188 人

○高齢化率　　69.1％

○集 落 数　　2 集落

（H31.1.1）

取組の経過

笠岡諸島の中でも北木島、白石島に次いで３番目に面積が大きく、２つの集落で構成しています。離島というハンディを克服するために２集落の協力体制の強化が求められています。

また、使われていなかった公会堂を「島民の憩いの場」「観光客の休憩所」等として改修し、笠岡本土から真鍋島までの距離を勘案し『五里五里』と名付け、様々なツアーを行ってきました。

さらに、平成２４年度に立ち上げた「真鍋島まちづくり連絡協議会」を中心に地域主体によるまちづくりを推進しています。この協議会では、「地元の人がより効果的な助け合いの仕組みを、自分たちで考えて作りあげていこう！」の精神で地域活性化に貢献する取り組みを行っています。

推進組織

真鍋島まちづくり連絡協議会

地域の特徴

産業としては漁業が中心ですが、近年のまちづくり協議会の活躍により、ニンニクの栽培・加工、地域の伝統食の継承としてヨモギ団子作りなどに力を入れています。

Ｈ３０年度の主な取組

○真鍋島まちづくり連絡協議会の活動

自主防災事業・山道整備事業・英会話事業など、各種事業を実施しました。

各事業を行うことで地区内での交流、また島全体、各種団体の枠を超えた交流を図り、島民がお互いを助けあえるような地域になるよう事業を展開しています。

高梁市 「玉川町（たまがわちょう）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　585 人

○高齢化率　　32.4%

○集 落 数　　23 集落

（H31.12.31）

取組の経過

本地域は、高梁市の南部に位置し、以前は葉たばこやこんにゃくなどの畑作、山間に連なる棚田での水稲等の農業地域でしたが、高齢化により耕作放棄地が拡大しており、自給的農家がほとんどとなっています。

平成２０、２１年度において、岡山県集落機能再編・強化事業に取り組み、対象区域の増原・下切地域にて住民意向調査を基に集落活性化計画書を策定しました。以後、増原・下切地域では,集落を単位とした福祉サロン活動の実施、サロン活動の範囲を基礎単位とした福祉マップの作成、有志による耕作放棄地でのウシの放牧等を実施してきました。

しかしながら、益々進行する高齢化の中にあって、増原・下切地域での取り組みも困難な状況になっているため、平成２５年度からは、地域まちづくり推進委員会を中心として、町全体での支えあい・助け合いのまちづくりを進めている。

推進組織

玉川地域まちづくり推進委員会・玉川公民館

地域の特徴

高台に位置する増原・下切地区は高齢化率６０パーセントという超高齢化地域となっており、町全体での支えあい・助け合いのまちづくりを進めています。

Ｈ３０年度の主な取組

○そうめん流し

平成３０年７月豪雨により、玉川町は多くの家屋浸水や道路の崩落などにより、町内の主なイベントを中止する状況に至りました。

この様な状態の中、玉川地域まちづくり推進委員会が中心となり、三世代交流の「そうめん流し」を実施いたしました。ブドウ・ミニトマト・ゼリーも流れ、久しぶりに子供達の笑顔を見ることができました。

今後も、町民と共に、復旧・復興に努め以前のような明るく楽しい町にしたいと思っています。

矢掛町 「山ノ上（やまのうえ）集落」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　34 人

○高齢化率　　76.47%

○集 落 数　　3 集落

（H31.1.1）

取組の経過

山ノ上集落は、矢掛町の西部の標高２００～２５０ｍに位置し、標高が高いという地理的条件と秋の低温と無霧の気象条件を活かして、古くから干柿づくりが盛んに行われてきました。近年は、人口の減少と高齢化が深刻化してきており、地域農業の衰退、ほし柿づくりの伝統と技術の伝承が課題となっています。

山ノ上自治会では、山ノ上干柿組合等と協力して、干柿まつりの開催や地元中学生・高校生のほし柿づくり体験の受入等の交流活動を実施し、地域の活性化に取り組んでいます。高齢化は進んでいますが、「地域の強いつながり」により伝統あるほし柿づくりをはじめ、巻柿、ほし柿餅等農産物の栽培のみならず、加工品の開発、青空市での販売を手がけ、地域をあげて積極的に６次産業化を推進しています。

今後は、山ノ上集落に来ていただき、地域の風景、食材、文化、伝統の素晴らしさを、地域住民とともに五感で体感していただくため、地域の魅力を発信していきたいと考えています。

推進組織

山ノ上自治会、農事組合法人山ノ上干柿組合

地域の特徴

矢掛町ブランド「山ノ上のほし柿」、「ほし柿餅」、「巻柿」を中心に都市住民・地元児童・生徒との交流事業

Ｈ３０年度の主な取組

○「第２０回干し柿の里　山ノ上干柿まつり」（平成３０年１２月２３日）

山ノ上自治会と農事組合法人山ノ上干柿組合等主催で開催。「山ノ上のほし柿」、「巻柿」をはじめ、地元産の新鮮な野菜、漬物等の加工品が販売されるとともに、矢掛高校、矢掛小・中・高子ども連合「ＹＫＧ６０」と協働企画した「雲の上カフェ」が１日限定のオープンとなり、干し柿タルト、山ノ上カレー等を販売しました。

矢掛町（しもこうずえ）「下高末集落」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　232 人

○高齢化率　　40.95％

○集 落 数　　6 集落

（H31.1.1）

取組の経過

下高末地区は、矢掛町北部の中山間地域に位置しており、地区を流れる美山川の水が豊富にあること、また稲作に適した適度な寒暖の差があることから、稲作が盛んに行われてきました。“高末米”として昔から高く評価されています。地区の山沿いには、棚田が広がっており、美山川の土手を埋め尽くすように咲く彼岸花など里山の四季折々の風景と相まって落ち着いた農村景観を作り出しています。

一方で農家の高齢化や担い手不足が進行し、条件の悪い棚田を中心として耕作放棄地も増加しつつあったこと、また、周囲の里山林も手入れが行き届かなくなっていたことから、今後の地域の農業維持に大きな不安を抱えていました。

このような中、地域の農業を発展させ、棚田をはじめとする地区の資源を次世代に受け継いでいくためには、都市住民との交流を積極的に行い、地域に元気を取り入れることが必要だという考えが地区住民の中で広がりました。このような住民の要望に応えて、１０年前から町が地区の中心地に交流の場として緑地公園や移住者のための住宅地等を整備しました。このように交流活動の基盤が整備されてきたことに伴い、本格的に都市との交流活動を開始するため、地区の有志の農家によって「下高末棚田保全組合」が結成されました。

また、下高末地区では近年新たに住宅地が造成されたことをきっかけとして、地区への移住者が増加し、従来の地区住民と新たな居住者との交流も必要となりました。新たな居住者の中には農業をしてみたい、菜園を作ってみたいという希望を持った者が多くいたものの、ほとんどが農業に関しては素人であり、このような新たな居住者への対応も必要となってきました。

このような背景から、下高末集落では、自治会が下高末棚田保全組合と協力して、都市と農村の交流活用、棚田・里山を始めとする地域資源の保全管理、地区の新たな住居者との交流等を目的として活動を行っています。

推進組織

下高末自治会、下高末棚田保全組合

Ｈ３０年度の主な取組

地域で商品化した「棚田水車米」の販路を拡大し、「さと×まちフェスタ」のほか、町内の物産店でも商品の販売を行った。

県内の学童保育施設の子供たちを招き、田植え体験を通して、都市部の人との交流を図るとともに地域の良さを PR した。

高梁市 「備中町平川」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　420 人

○高齢化率　　65.7%

○集 落 数　　24 集落

（H31.12.31）

取組の経過

平川地域は、高梁市の西部の標高４５０m程度の高原部に位置し、高原特有の気候を生かした夏秋トマトやピオーネ栽培を中心とした農業が主な産業で、隣接する鉱山も地域の雇用に大きく貢献してきました。

地域の高齢化率は約６４%で、就学児童・生徒も減少傾向にあるため、今後も少子高齢化がますます加速することが予測されます。

こうした中、集落機能の維持・強化を図るため、集落座談会や住民アンケートを実施して、平成２０年度に集落活性化計画を作成し、計画に基づいた「福祉マップ作成事業」「T型集落点検事業」等に取り組んできました。その他にも「若者地方体験交流事業」「体感田舎暮らし事業」等、住民が地域の課題解決や地域資源の活用を図り、様々な分野でユニークな活動に取り組んでいます。

推進組織

平川地区コミュニティ協議会

地域の特徴

老若男女を問わず多くの住民が地域活動に参加し、住民主体のまちづくりを楽しみながら実践している地域です。また、地域外の人も積極的に受け入れることによって、地域外に「平川ファン」も生まれています。

Ｈ３０年度の主な取組

○平川土曜夜市

地域で運営委員会を立ち上げ実施、継続的な事業のため市内外からも訪れる人が多数います。

平成３０年度は７月２１日（土）に実施し、この当事イベントは７月豪雨災害のため中止するものが多数ある中、地域に活力を呼び戻すため実施しました。

今後も継続して事業の実施を考えています。

新見市「神郷油野三室（しんごうゆのみむろ）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　68 人

○高齢化率　　52.9%

○集 落 数　　2 集落

（H31.1.1）

取組の経過

新見市の北西部で広島県との県境に位置する豪雪地帯です。産業は、農業や林業が主なもので、渓谷（三室峡）や自生の石楠花（シャクナゲ）などの地域資源に恵まれており、これらを活用した交流事業なども行われています。

地域内の全戸が構成員となる三室観光組合を組織し、春にしゃくなげまつり、秋に紅葉まつりを開催するなど、地域外住民との交流事業を積極的に実施しています。また、併せて石楠花周辺の清掃美化活動なども実施しています。

推進組織

三室観光組合

地域の特徴

豊かな自然環境を生かした都市住民との交流事業の実施

Ｈ３０年度の主な取組

三室地区では、春と秋に地域外の住民との交流事業を実施しています。

５月５日には『三室峡しゃくなげまつり』を開催し、ヤマメの塩焼きや山菜うどん、特産品などの販売や、地元神楽社中による備中神楽、地元和太鼓グループのステージイベント、清流でのヤマメ釣りなど多彩な内容で実施しました。

１１月３日には『紅葉まつり』を開催し、ヤマメの塩焼き、山菜うどんの販売や餅まきなどを実施しました。また、恒例となっている岡山市の“うらじゃ”グループによる演舞もあり大変盛り上がりました。

春と秋のイベントとして定着しており、紅葉まつりは観光ツアーのルートにも採用いただき多くの方のご来場をいただきました。また、今年度は石楠花自生地の支障木の伐採を行い、景観保全に取り組みました。これからも、地域外の人に三室地域の魅力を紹介し、交流人口の増大による地域活性化を図るため地域を挙げて頑張ってまいります。

新見市「哲多町大田（てったちょうおおた）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　386 人

○高齢化率　　46.6%

○集 落 数　　12 集落

（H31.1.1）

取組の経過

大田地区は、新見市南西部（旧哲多町）の山間地帯に位置し、農業（水稲・ピオーネ・トマト）・林業が主な産業となっており、おもつぼ湿原やスズラン、荒戸山などの地域資源があります。活動組織として地域内の全戸が構成員となる大田ふるさと振興協議会があります。

大田ふるさと振興協議会は、活動内容ごとに５つの事業部（福祉事業部・営農事業部・コミュニティ事業部・演劇事業部・本部）を設けており、各事業部において、給食サービスや夏祭り、ボランティア活動など年間を通じて実施しています。

推進組織

大田地区ふるさと振興協議会

地域の特徴

高齢者生活支援事業の実施

Ｈ３０年度の主な取組

大田地区では平成２４～２５年度「高齢者生活支援事業」として、試行的に交通弱者支援事業などを実施しました。

現在は、以前から継続して実施している高齢者を支援する給食サービスや友愛訪問、高齢者とのふれあい教室、夏祭り、とんど祭り、広報紙の発行、健康の森学園との交流などを実施しております。演劇事業部もあり、地区内外でのイベントなどで活躍しています。

地域のコミュニティづくりと福祉サービスを中心に活発な活動を行っています。

吉備中央町（きゅうにいやましょうがっこうく）「旧新山小学校区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　427 人

○高齢化率　　49.6％

○集 落 数　　6 集落

（H31.1.1）

取組の経過

吉備中央町の北西部に位置し、高梁市と真庭市に隣接しています。集落によって経済圏域が備前、備中、美作とはっきりと分かれています。産業については、古くは林業が盛んな地区でしたが、農作物の特産化を目指して取り組んだ自然薯栽培が成功し、新山の自然薯として有名になり、町の合併後も町内全域に広がりを見せ、今では町の特産品としての地位を築いています。

また、昭和６３年のふるさと創生事業を契機に、地区全体で地域おこしの機運が盛り上がり、岡山市の京橋朝市をはじめとする町内外のイベントに出店するなど、地区外との交流を積極的に行っていたことから、地区内の一体感がより一層強まり、地区民運動会の開催や県道沿いの花壇整備など、地域内の活性化にも取り組んでいます。

現在は、地域で高齢者を支える施設「新山ほほえみサロン」を運営し、平成２９年には地区社協を立ち上げるなど、福祉の村づくりを積極的に展開しています。

推進組織

新山地区活性化推進協議会

地域の特徴

地域の高齢化が急速に進んでいるため、今後の活動を福祉分野へシフトすべく組織や会計を見直し、さらに安全・安心の地域となるよう取り組みます。

Ｈ３０年度の主な取組

○地区内ふれあい運動会

年に一度、スポーツを通して親睦と交流を図ります。老若男女が参加し、思い思いに競技を盛り上げ、日頃の疎遠解消と近況報告で盛り上がっています。（天候不良のため中止）

○特産のさば寿司づくり

昔から受け継がれてきた、さば寿司の注文を地区内外から受け、毎年秋祭りに合わせて男女有志が協力して作ります。今では、地区外からのボランティアの参加もあり、調理場の中には笑顔があふれ、年配の指導者はこの日を楽しみにしています。（約７００本作成）

○町の「わっしょい和んさか吉備高原フェスタ」（天候不良のため中止）や「自然薯祭り」に、生産者グループがイベントを盛り上げるため、欠かさず出店しています。

○地元の素材を生かした味噌、豆腐作り

加工部会が地区内の原材料を使い、昔ながらの田舎らしいみそや豆腐を作っています。

○新年互例会

新年を迎え、集落を越えた親睦と交流を深めています。

○高齢者を対象とした「新山ほほえみの集い」を開催しています。

久米南町（しもゆげかみのちょう）「下弓削上之町」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　400 人

○高齢化率　　48%

○集 落 数　　14 集落

（H31.1.1）

取組の経過

「いいひといっぱい久米南町」をキャッチフレーズとした町の中心部に位置し、自然とほどよい距離にある集落。古くは宿場町で街道沿いには商店街を形成していたが、多くの商店が閉店し、昨今では空き家が多く、その管理等が問題になっている。下弓削上之町では、地域の活性化を目指し、平成２１年に上之町地区活性化委員会を組織。特産品（ゆずコロ）開発、学生との交流イベント、空き家を活用した取組などを中心に地域の課題に取り組んでいる。

推進組織

○名　　称　　上之町地区活性化委員会

○代表者名　　黒田　誠一

○設立年月日　平成 21 年

地域の特徴

「川柳の町久米南町」にちなんで、布に川柳が大きく書かれた「川柳のれん」約１００枚を軒先に張り出し、「河童街道散歩道」と称して上之町の地域資源を知ってもらう「町歩きイベント」などお客様を迎える活動を行っている。平成２７年度には新たに５枚（五輪カラー）ののれんを新調した。また学生との交流により、学生と地域が共同で開発した地域特産品「ゆずコロッケ」も町内外の様々なイベントへ出店している。平成２８年度には高校生との連携事業により「ゆずコロのうた」が完成し、イベント販売ブースで曲を流している。

Ｈ３０年度の主な取組

○ゆずコロの出店販売（主なもの）

・おかやまマラソン　　・高梁市玉川町文化祭

・真庭市　やまびこマーケット　　・さと×まちフェスタ

・天神山文化プラザ　イベント

・町内各種イベント

《寄ってっ亭》

空き家を改修して活動拠点を整備。毎月５がつく日に開放し、会員同士の親睦を深めている。

平成 30 年度から「久米南町住民交流通いの場事業」に着手し、地域住民の介護予防に貢献している。

○その他事業

・「久米南町住民交流通いの場事業」開始

・活性化委員会主催　夕涼み会

・岡山一宮高校社会貢献事業　受入

・「くめなん未来商店街」共催

・ジャガイモ植え体験交流イベント

美作市（うえやまにし）「上山西地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　161 人

○高齢化率　　41.6%

○集 落 数　　8 集落

（H31.1.1）

取組の経過

美作市の最南端に位置し、和気町と接する本地区は、かなりの高低差があり、急傾斜地で、斜面には棚田が広がっています。かつては８千枚以上の棚田が耕作されていましたが、住民の高齢化と大型機械の使用が困難なことから不耕作となり農地の荒廃が進行しています。近年、地域おこし協力隊などの導入により棚田の再生が進んでいる状態ですが、地域おこし協力隊だけに頼らず、「自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げる」ことを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、上山集落協議会を設置しました。

推進組織

上山集落協議会　一般社団法人　上山集楽（H25.4.1～）

地域の特徴

多くの人、組織がこの地で交流し、集落を活性化するための活動を行っています。また、地域住民の参画を促進させ、推進組織の強化を図っています。

H30 年度の主な取組

○棚田景観・観光拠点の整備

棚田の景観整備等に関係するイベントを開催し、棚田の情報発信を行うとともに地域内外の住民交流を通じて、田舎、中山間地への関心度及び集落に対する郷土愛の醸成を図っています。

○中山間地域の「移動の自由」実現への取り組み

過疎高齢化によって商業施設や公共交通が縮小し、移動に困難を抱える中山間地域において、超小型電気 EV など多様なモビリティを導入し、自由に移動できるシステム作りに取り組んでいます。

美咲町 「打穴（うたの）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　746 人

○高齢化率　　45.4%

○集 落 数　　22 集落

（H31.1.1）

取組の経過

標高１５０ｍ～４５０ｍの山間丘陵地域にあり、地域の大部分は森林面積で占められています。耕地については中山間総合整備事業等によりほ場整備が進んでいますが、狭隘な山間、谷間を利用した棚田もあり、畑は急傾斜を利用して耕作されている典型的な中山間地域です。

これまでも、町の「協働のまちづくり事業」など活用し、まちづくりに積極的に取り組んできましたが、農業部門に力を入れたまちづくりを進める組織「元気集落うたの推進協議会」を立ち上げ、「おかやま元気！集落支援事業」を通じて、農業部門のみならず、地域リーダーの養成につなげ、集落全体の活性化に向けた取り組みも行っていきます。

推進組織

元気集落うたの推進協議会

地域の特徴

中山間地域で取組みやすい農産物の生産及び加工販売〔きのこ（山林を生かす）、エゴマ（栽培しやすい）、ホンモロコ（休耕田利用）等〕に取り組んでいます。

Ｈ３０年度の主な取組

○特産品開発に向けた取組み

地域の休耕田を活用した特産品としてエゴマ、中国菜、西条柿に取り組んでいます。

エゴマ栽培については、荒地でも容易に栽培できる点や、エゴマ油の原料として確実に販売できる点から、エゴマ栽培者は増加しています。エゴマ栽培の定植培講習会も開催し、町の奨励作物として普及や技術向上を図っています。

美咲町のふるさと納税の返礼品としても登録をしています。

美咲町「江与味（えよみ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　388 人

○高齢化率　　45.4%

○集 落 数　　12 集落

（H31.1.1）

取組の経過

江与味地区は美咲町の南西端、旭川湖の西岸に位置し、曽母谷川流域の谷間とその周辺の高原からなる地区です。

地域の伝統料理の継承や高齢者見守りを兼ねた給配食サービスを実施し、運動会やクリスマスイベント等により多世代の交流を重ねている。また、豊かな自然を守り、後世へ繋げていくため「ホタル祭り」を開催し、次世代へ自然の大切さを伝承している。

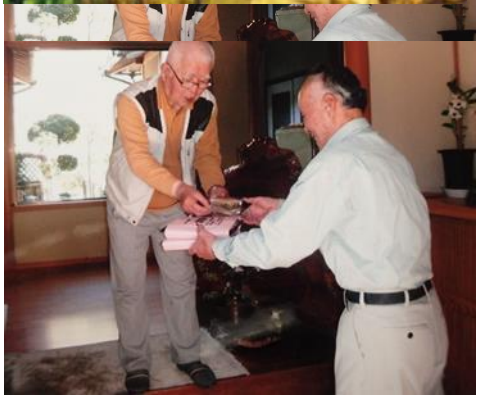
さらに、組織的な防災・防犯活動も行っていますが、今後も、自主防災の強化活動に取組むなど、さらに地域活性化を進めていきたいと考えています。

推進組織

江与味自治会

地域の特徴

Ｈ３０年度の主な取組



○大山「ホタル祭り」

地域内を流れる大山川上流の「見返りの滝」付近は、５月下旬にゲンジボタルが多く見られ、期間中にはホタル祭りを開催している。

○地域交流活動

地域の伝統料理の継承や見守りを兼ねた給配食サービス、また、運動会やクリスマスイベント等を積極的に開催し、多世代による交流を図っています。

高梁市（うじちょう）「宇治町」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　588 人

○高齢化率　　55.2%

○集 落 数　　30 集落

（H31.12.31）

取組の経過

高梁市宇治町では、中学校の統合（平成元年）に前後して、主に地域振興を目的とした「都市との交流活動」を中心に住民主体のまちづくりを進めてきましたが、地域の人口減少、少子高齢化には歯止めがかからず、就学児童・生徒も減少傾向にあり、小学校の存続も危ぶまれている状況にあります。

こうした状況の中、平成２４年度において住民意向調査を実施し、話合いを進めた結果、今後取り組むべき地域の重点課題を「移住者受入体制の整備」「既存事業の見直し（地域運営体制の見直しを含む。）」「高齢者等が安心して生活できる生活基盤の整備」の３本柱に定め、事業計画づくりと体制整備を進めています。

推進組織

宇治地域まちづくり推進委員会

地域の特徴

現在まで取り組んできた活動を検証し、地域の課題に即した今後のまちづくりのあるべき姿を模索しています。

Ｈ３０年度の主な取組

○宇治特産品開発事業

宇治地域では、農業後継者不足から増加する耕作放棄地を活用し、健康への効果が期待される食品として全国的に話題となっているもち麦「キラリモチ」の栽培を(一社)宇治雑穀研究会を中心に取り組み、耕作放棄地解消や食育、高齢者の生きがい作りに繋げている。特に 29 年度から 6 次化を目指した特産品としてもち麦発泡酒「花笠」を開発販売しており、地域課題の解決、もち麦の機能性から期待される市場性や付加価値の向上、地域活性化も期待される内容として 30 年 11 月に 6 次産業化認定を受けました。今後は、全国へ向けた情報発信による販路拡大が期待される。また同時期に中四国農政局より「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区に選ばれるなど地域住民の地域づくりへの関心や意識向上につながった。

また、高齢者等が気軽に集える場としての「宇治カフェ」や移住者の交流イベント「全国雑煮サミット」は、好評を得ており継続実施しています。

高梁市 「松原町（まつばらちょう）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　698 人

○高齢化率　　54.0%

○集 落 数　　30 集落

（H31.12.31）

取組の経過

高梁市松原町では、現在まで地域資源を生かした都市との交流を中心に、住民主体による手づくりのまちづくりを進めていますが、急激な人口減少や少子高齢化には歯止めがかからず、幼稚園の休園、診療所の閉鎖が現実のこととなり、この状況が続けば地域活力の急速な低下が危惧される状況にあります。

こうした中、地域内で活動する「やまびこ市場」等の各種団体の協力によって、定住推進による地域振興を中心とした取り組みを早急に推進する必要性があるため、住民の意識調査を実施のうえ、取組の検証を行っています。また、地域内の空き家等の利活用により、就農希望者や田舎暮らし志向者等の移住者の受入れを進めていくとともに、地域外で暮らしている地域出身者を松原地域の応援団と位置づけ、地域とのつながりを構築し、定年後のＵターンの推進により、地域の維持・活性化を目指しています。

推進組織

松原地域まちづくり推進委員会

地域の特徴

空き家等の利活用により、ＵＩＪターン希望者の受入れを推進しています。また、松原のＰＲ、地域活力維持および伝統継承のために、町民手づくりの「かぐら街道ふれあい祭り」を隔年で開催しています。

Ｈ３０年度の主な取組

○移住者受入体制の整備

まちづくり推進委員会の組織内の地域振興部を中心に、移住者の受け皿となる空き家の掘り起しのため、空き家調査を実施し所有者に対して取り組みの説明と提供を働きかけてきました。空き家バンクへの登録数をもう少し増やせるよう、今後も提供を呼びかけていきます。

○かぐら街道ふれあい祭りの実施

地元の農産物・加工品の販売や町民の演芸・郷土芸能の上演、ゲーム・福引など、ほぼ全てが町民手づくりの祭りを開催し、多くの来場者で賑わいました。

笠岡市 「白石島（しらいしじま）」の取組概要

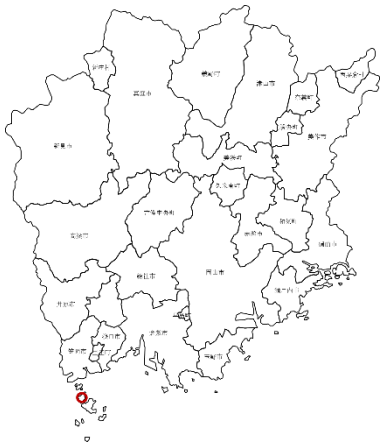
地域の概要

○人　　口　　466 人

○高齢化率　　63.1%

○集 落 数　　10 集落

（H31.1.1）



取組の経過

白石島は瀬戸内海国立公園の代表的な自然景観美をもつ島で、笠岡諸島の島のなかでは２番目に面積が大きく、１０の集落で構成しています。急速な少子高齢化が進んでいる中で、離島というハンディを克服するために集落の協力体制の強化が求められています。

こうした中、地域各種団体の連携を強化する目的で、平成１１年度に「白石・島づくり委員会」を立ちあげました。この「白石・島づくり委員会」では、明るく住みよい郷土づくりを目指して、安全・安心・助け合いをキーワードに掲げて、毎月一回、定例会を開催し、地域特有の問題解決や地域の特性を活かした地域づくりについて、話し合いを行っております。

平成２２年１０月には、地域のまちづくりを支援するため、市職員３名が地域担当職員として白石島に配置されました。地域と行政がお互いに情報を共有しながら、身近で強い信頼関係を築き、協働で地域のまちづくりを進めております。

推進組織

白石・島づくり委員会

地域の特徴

急速な少子高齢化の進む中、地区内における各種団体の連携の下により、明るく住みよい郷土づくりを目指した取組が特徴です。

Ｈ３０年度の主な取組

○安全・安心・助け合い事業

島内には外食ができる場所や配食サービスがありません。そこで、主に一人暮らしの高齢者の自立支援と食生活の向上を目指して、栄養のバランスの整った日替わり弁当の配食サービスを毎週月・水・金の昼食時に実施しています。⇒島内の事業者が配食サービスを再開したため、島づくり委員会としての配食サービスは 12 月末で終了。

○大学連携事業

岡山県立大学の学生 10 名と先生方に白石島国際交流ヴィラに宿泊してもらいながら、笠岡ブランドである白石島海水浴場、遊歩道、漁業体験、桑畑での作業等をおこなってもらった。そして、大学生ならではの目線で情報発信の方法や白石島に必要なことを提案いただいた。

美作市 「東粟倉（ひがしあわくら）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,018 人

○高齢化率　　42.2%

○集 落 数　　7 集落

（H31.1.1）

取組の経過

本地域は美作市の北東部に位置し、兵庫県と接し、岡山県最高峰の後山（１，３４５ｍ）「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」から麓にかけて広がる地域であり、集落は標高６００ｍから２５０ｍの間の山間部に形成されています。

地域内の人口の内４２０人程度が６５歳以上の高齢者となっており、過疎化・高齢化により閉塞感が高まっていることから、地域内の連携をより強化することで様々な課題の解決につなげたいと思っています。

自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、愛の村元気プロジェクト実行委員会を設置しました。

推進組織

愛の村元気プロジェクト実行委員会

地域の特徴

多くの観光資源を有する東粟倉地区では、その活用及び維持管理を行い、交流人口の増加につなげ、多くの地域住民が参画できる事業の推進を図っています。

Ｈ３０年度の主な取組

○「愛の村パーク」を中心とした各種イベントの実施

同地域の交流拠点施設である「愛の村パーク」を中心として、地域外からの来客だけでなく地域住民も楽しめる催しを検討しています。また、冬季の集客イベントとして地域内外から好評を得ている「東粟倉雪まつり・雪合戦大会」も引き続き実施しています。

○観光資源の掘り起こし

合併前の旧東粟倉村で整備した観光施設の有効活用策を研究し、資源の掘り起こしを検討しています。また、地域の特性を生かした観光を模索し、交流人口の増加を目指すこととしています。

○県下最高峰「後山」の整備及び交流登山会の実施

後山連山の登山道、遊歩道の整備を行い、もみじ狩り・交流登山会等を通じ、東粟倉の魅力を発信しています。

美作市「小房和田（おぶさわだ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　106 人

○高齢化率　　50.0％

○集 落 数　　5 集落

（H31.1.1）

取組の経過

美作市の北部に位置し、地域のほとんどが山林で占められており、吉野川の支流である小房川の流れに沿って、集落・田畑が形成されています。

地域内の５集落のうち２集落が高齢化率５０％を超え、過疎化・高齢化により閉塞感が高まっていることから、地域内の連携をより強化することで様々な課題の解決につなげたいと思っています。

自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、小房和田地域活性化推進委員会を設置しました。

推進組織

小房和田地域活性化推進委員会

地域の特徴

地域、行政、地域おこし協力隊が協働して、地域内にある観光体験施設を活用した田舎体験プランを作成し、都市部の方に提供することにより、交流人口の増加を図ります。

Ｈ３０年度の主な取組

○特産品開発事業

昨年より引き続き特産品開発として、ハバネロの栽培、加工に取り組んでいます。

この特産品を商品化し、地域内外へ販売するとともに、都市部の方の体験メニューや、食事に活用できればと考えています。

また、地域内の花いっぱい運動活動にも取り組んでまいります。

○田舎体験ツアーの提供

都市部の方との交流の一環として、お田植え祭り、収穫祭を行い、交流の輪の拡大に取り組みました。

美作市「巨勢（こせ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　831 人

○高齢化率　　45.5%

○集 落 数　　10 集落

（H31.1.1）

取組の経過

美作市の南部に位置し、吉野川沿いの平地と支流の海田川沿いの山間部に分けられ川の流れに沿い、集落、田畑が形成されています。

巨勢地区は平成１８年３月に小学校の統廃合により廃校となった後若者の流出が加速し高齢化が進行しています。そういった現状を改善するため自分たちの地域は自分たちの手で「GENKAI」から「GENKI」へを合言葉に巨勢地区活性化協議会を設置しました。

推進組織

巨勢地区自治振興協議会

地域の特徴

地域拠点の整備及び推進組織の強化を図り、自己財源の確保につながる事業を多く企画しており、持続可能な地域づくり、組織運営に努めている。

H30 年度の主な取組

○小学校の跡地利用

教室の一室を整備し、地元食材や特産品の提供ができる小学校跡地レストランが開業し年間１，７００名以上の来客がありました。週２回ではありますが、カフェとランチを地元住民と地域おこし協力隊が運営スタッフとなって営業しています。

営業日が固定したことで地域住民の交流の場としての活用がさかんになってきました。また、地域住民が一堂に会するイベントを開催します。元気！集落の取り組みの周知、地域づくりの意識付けもあわせて行います。

○小さな拠点づくり

旧巨勢小学校を拠点に地元住民の集いの場としての機能を高めていき、集落の自立活性化を目指します。

美咲町 「大垪和（おおはが）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　492 人

○高齢化率　　56.1％

○集 落 数　　30 集落

（H31.1.1）

取組の経過

大垪和地区は、吉備高原の北縁にあり、集落の多くは標高４００m前後のところに立地し、すり鉢状に広がる大垪和西棚田に代表されるように地区内には棚田が発達しており、典型的な中山間地域です。

平成元年発足の「大垪和村おこし推進協議会」、平成２１年発足の「大垪和協働のまちづくり協議会」が中心になって、ふるさと講座、ふるさと宅配便、運動会、文化祭、滝谷池さくらまつりの実施、地産地消の時期折々の野菜、豆腐、あげなどが食べられる棚田のあげ家「やまっこ」の運営など行っています。また、担い手が高齢化する中、田舎暮らしを希望する移住者とともに伝統芸能（獅子舞）の継承や空き家の改修を通じた自主活動組織の育成など地域の課題解決に向けて活動するとともに、地域資源をいかした活性化を考えています。

推進組織

大垪和協働のまちづくり協議会

地域の特徴

Ｈ３０年度の主な取組

○棚田のあげ家「やまっこ」

昔ながらの豆腐と油揚げを作っている「やまっこ工房」が農家レストラン「棚田のあげ家 やまっこ」として２７年度から営業。「ざる豆腐づくり体験」教室も始めるなど、日本棚田百選に選ばれている大垪和西地区の観光客らに喜ばれています。

また、とうふの日（10 月 2 日）に開催しているイベント「やまっこかふぇ」では、大学生と協同でスイーツや揚げバーガーを提供しました。

○広域的な交流

毎年、環境整備に大学生等に参加してもらい交流を図っています。稲刈りなどに大学生や町外の方の参加をいただき広域的な交流ができました。

真庭市「鹿田（かった）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　630 人

○高齢化率　　37.8%

○集 落 数　　16 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市の南部、旧落合町の中でも南西部に位置し、平坦地で国道３１３号線及び備中川と隣接しており、周辺には田園地帯が広がっています。

住民会では、昭和３９年から鹿田公民館を拠点として活動を行ってきており、平成２４年４月から新たに住民会組織（各部）を構成し運営しています。

地域住民みんなで協力し『住みよい鹿田』となるよう地域づくりに取り組んでいます。

推進組織

鹿田住民会

地域の特徴

この地域では夏には、昔から受け継がれている『鹿田踊り』（市無形民俗文化財）を納涼盆踊り大会において住民みんなで取り組んでいます。また、冬には昔から行っていた年の瀬市『むかし鹿田市』を地域全体参加のもと実施しています。

Ｈ３０年度の主な取組

○むかし鹿田市（かったいち）活性化事業

昔、宿場町として栄えた鹿田で歳の市として始まった行事を現代によみがえらせた行事であり、この市では、多くの新鮮な山の幸や海の幸を販売します。また、石黒代官が街を見回るイベントも有名です。地域住民が構成する保存会による市重要無形民俗文化財「鹿田踊り」等も披露されます。

○文化継承事業（石黒代官を活用した地域づくり）

むかし鹿田市でも石黒代官を活用したイベントを行っていますが、実際に詳細な歴史を知る者は一部しかいません。そこで、石黒代官の歴史を詳細に調べ、講演会等を開催して、歴史を再確認しています。また、地域の名所旧跡１３カ所を案内する表示板を付近の国道沿いなどに設置したり、５６の文化財や伝統行事をまとめた「鹿田の文化財マップ」を作製し配布するなど、鹿田地域のさらなる活性化を目指しています。

名代官石黒小右衛門没後 250 年祭記念事業として、実行委員会が作成した紙芝居を YOUTUBE で紹介しています。方言いっぱいの紙芝居です。

是非、検索してみてください。

真庭市 「日野上（ひのうえ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　149 人

○高齢化率　　55.7%

○集 落 数　　11 集落

（H31.1.1）

取組の経過

日野上地域は真庭市南部、旧落合町の中でも南西部に位置する山地で、典型的な過疎・高齢化地域となっており、山間に集落や棚田、畑が点在しています。

過疎化・高齢化の進行に伴い、催しへの参加状況も減少傾向にあり、地域の実情にあった活動を検討しているところです。

推進組織

日野上地域自主組織

地域の特徴

現在休校となっている旧日野上分校を拠点に地域住民が協力して、納涼祭・運動会・三世代交流化などの催しを行っています。

Ｈ３０年度の主な取組

日野上のお飾り

○地域交流事業

地区納涼祭では、都会に転出された方に「故郷に帰っておいで」と絵葉書を書いて、帰省を促しました。たくさんの方が故郷に帰って納涼祭に参加し、賑やかなものとなりました。大運動会や三世代交流会では、小さな子供からお年寄りまで世代を超えた交流ができました。１２月には、毎年恒例の『しめ縄づくり教室』を開催し、参加者は手作りのお飾りで新年を迎えることができました。

○環境整備事業

市道の草刈り、缶拾いなどの環境整備を全戸参加で実施しました。また、地域住民の集いの場になっている八幡神社横のグランドを、住民の協力のもと、整備を行いました。

○広域農道「木山街道」活用事業

広域農道「木山街道」では、一角から雲海と日の出が楽しめる。この雲海と初日の出を目当てに写真愛好家が訪れるほどです。この地域資源を活用しようと地域では大みそかにイベントをするなど、地域資源の活用が始まりました。

○特産品開発事業

しめ縄を地域の特産品とするように研究と人材育成を行いました。しめ縄用のわらの生産からしめ縄の加工までを地域で行っていましたが、今年度からしめ縄の作成ができず、販売を取りやめました。

真庭市 「中津井地域」の取組概要

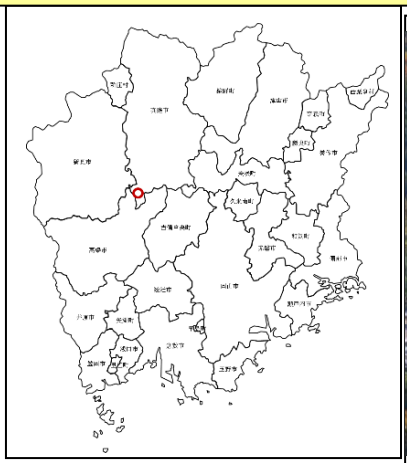
地域の概要

○人　　口　　1,096 人

○高齢化率　　42.2%

○集 落 数　　15 集落

（H31.1.1）



取組の経過

真庭市南部、旧北房町の中でも南西部に位置し、高梁市に隣接している地域です。古くは伊勢亀山藩飛地領の陣屋町として栄え、近年も地域の交流拠点として賑わっていましたが、昭和３０年代からの人口流失により、急激な少子高齢化が進行、商工業とともに農業も衰退、生活用品の購入や公共交通機関の確保も難しく不便をきたしています。地域では、地域自主組織が中心となり、地域の見守り活動とともに交流イベントの開催や歴史遺産の活用による地域の活性化に努めています。

推進組織

中津井せんだんの会

地域の特徴

古くから栄えたところで、国指定史跡の「大谷定古墳群」などの多くの古墳や中世の「備中兵乱」の舞台となった山城「佐井田城址」、江戸時代末期まで続いた「伊勢亀山藩陣屋跡」等があり、せんだんの会に「資産保存部」を設置して、保存整備と観光振興に取り組んでいます。また、「雛の文化まつり」に、地域の庄屋の輿入れ道中を再現しています。

Ｈ３０年度の主な取組

○備中中津井雛の文化まつり

３月２３日（土）、２４日（日）の２日にわたり開催の予定です。江戸時代から現代までの雛と文化協会会員の俳句、写真、手芸作品等を展示。江戸、明治期に行われた現倉敷市の塩田王「野崎家」への輿入れを再現した駕籠と馬による行列が人気で多くの観光客が訪れています。

○備中中津井いやしの里カラクリ祭り

陣屋通りを流れる水路の利用した昔話等を題材にした水車カラクリ約 30 基やミニ水車、古民家模型等を展示、地域の特産品等の販売を行っています。

○佐井田城址の整備保存事業

天文から天正時代にかけて山陰の尼子氏と安芸の毛利氏、備前の宇喜多氏による備中兵乱に、備中攻略の拠点となった山城、「佐井田城址」を整備しようと「遺産保存部」を設置し、城址周辺や登城路、駐車場の整備、探訪会の開催をしています。今後イベントも計画しています。

真庭市（みずた）「水田地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,326 人

○高齢化率　　39.5%

○集 落 数　　34 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市南部、旧北房町の中でも最東部に位置し、旧落合町に隣接している地域です。中国自動車道北房 IC からも近く、流通施設、商業施設もありますが、周囲には田園地帯が広がっています。従来から商業地として栄えていたころもありましたが、人口の流出や高齢化が進み、農業の後継者が不足するなど、耕作放棄地が急増しています。

地域自主組織である「水田むらづくりの会」が平成１７年に結成され、スポーツ大会や環境整備事業など年間を通して、ふれあいや交流の機会を持ち地域活性化に努めています。

推進組織

水田むらづくりの会

地域の特徴

北房の花と言えばコスモス。北房地域全体でコスモスの花の整備に取り組んでいますが、水田地域のコスモス街道では、秋になると周囲一面にコスモスのアーチが広がります。

Ｈ３０年度の主な取組

○コスモス街道整備事業

コスモスの種植えから水やり、草取り等環境整備に子どもから大人まで地域をあげて取り組んでいます。地域が主体となってコスモス街道等を歩く「ウォーキング大会」を企画し、地域住民の健康増進と交流につなげる活動を行っています。

○三世代交流「らくらく祭り」

舞台発表をメインとしたお祭りを企画し、子どもからお年寄りまでが参加できる三世代交流事業を行っています。

○水田米普及事業

地域のブランド品である「水田米」を市内の道の駅やＪＡ直売所で販売し、普及促進を行っています。

真庭市「土居（どい）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　125 人

○高齢化率　　36.8%

○集 落 数　　5 集落

（H31.1.1）

取組の経過

土居地域は、真庭市の中央部(旧久世町)に位置する平坦地で、市役所本庁舎が有る中心市街地や米子自動車道久世ＩＣからも近く、周辺には区画整備された田地が広がっています。

従来から農業が盛んな地域でしたが、近年急速に過疎・高齢化が進み、農業の後継者が不足する状況となり、耕作放棄地が急増しているのが現状です。

地域では、平成１９年１０月に結成された地域自主組織を中心に、各種団体と連携して三世代交流事業、納涼祭など年間を通して地域をあげてのイベントを実施してきましたが、さらなる活性化を図るため、平成２５年１月に「おかやま元気！集落」に登録し、集落機能の維持・強化に取り組んでいます。

推進組織

土居自治会

地域の特徴

地域の伝統行事を継承するとともに、平成２５年２月に「土居・中島地区人・農地プラン」を策定し、耕作放棄地の解消に向けた新たな事業を展開しています。

Ｈ３０年度の主な取組

活動休止

笠岡市 「六島（むしま）」の取組概要

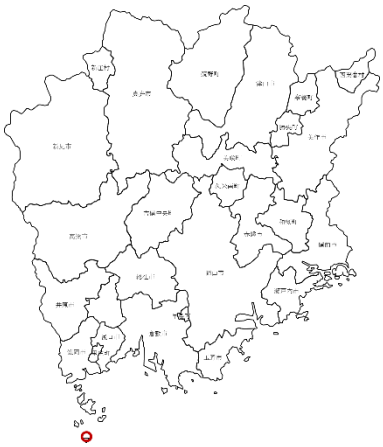
地域の概要

○人　　口　　61 人

○高齢化率　　60.7%

○集 落 数　　１集落

（H31.1.1）



取組の経過

平成７年ごろから島のシンボルである「水仙と灯台」をキーワードに積極的に島づくりをすすめています。水仙見学ツアーや夏の水仙植栽ツアーを実施し、その取組によって水仙も増え、リピーターの観光客が大勢訪れるようになっています。

平成２３年から六島まちづくり協議会を設置し、島づくりに若い世代の力を借りようと「インターンシップ」事業を展開しています。これまで、平成２４年度から毎年春と夏に２～７名のインターン生を受け入れています。インターン生の発案で、空き家を利用した「島小屋」をリノベーションし、平成２８年１１月１日にオープンしました。

推進組織

六島まちづくり協議会

地域の特徴

毎月１回のまちづくり協議会定例会で島内の情報共有を行い、人口は少ないがインターン生をはじめ島外の応援団や水仙や島小屋を活かした交流人口増の取り組みを実施中。

Ｈ３０年度の主な取組

○新しい担い手を

六島では、小学校の存続が地域の希望の光であるため、子供を持った家族の受け入れに向けた事業を展開している。

六島子育て体験事業では、実際に移住希望者に島へ来てもらい、島暮らしを体験する機会を創出した。

また、若者が島で生活するためには仕事の創出が不可欠であるため、以前から小規模におこなっていたレモン栽培を本格的に実施している。

津山市 「高田（たかた）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　2,184 人

○高齢化率　　33.2%

○集 落 数　　4 集落

（H31.1.1）

取組の経過

旧津山市の北西部に位置し、景勝地“横野の滝”を有する自然豊かな地域です。

また、紙漉き等の伝統工芸が盛んで、金箔合紙を製造し、京都や金沢の金箔工芸品制作などにも寄与しています。地区内にある高田神社では、秋の大祭に県重要無形文化財の獅子舞が演じられます。

高田地域ではこれまで、地域歴史文化の研究や愛育委員による健康指導など、各団体がそれぞれに活発な活動を行ってきましたが、過疎化・高齢化が進む中、地域住民の力を有効に効率よく活用するために各団体が連携した協議会を立ち上げました。

広報調査部会、総務・文教部会、環境生活部会、産業農林部会の部会を組織し、各分野で課題の解決や新しい取り組みについて協議し、活動していきます。

推進組織

高田町づくり協議会

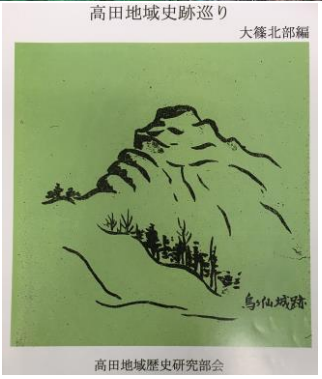
地域の特徴

農地、里山を活かした産業の推進

Ｈ３０年度の主な取組

高田地域史跡巡り

大篠北部編



高田地域歴史研究部会

○農地・山里の産業の推進

農業部会が中心となり、行者ニンニクや山わさびの栽培に取組んでいます。地域の特産品づくりを目指し、収穫した行者ニンニクは、試食会を開き、子ども達と一緒に試食しました。子ども達にも好評で、今後特産品としての可能性を感じています。

○文化・歴史遺産の研究

今まで進めてきた地域の歴史について、今年度「高田地域史跡巡り」の冊子を作成しました。小学校のウォークラリーを通じて、小学生に体感し、理解できるよう、これまでの歴史の研究内容を伝えています。何気ない日常の景色から地域の歴史を再発見し、地域への誇りを育てることができるよう取り組んでいます。

笠岡市 「飛島（ひしま）」の取組概要

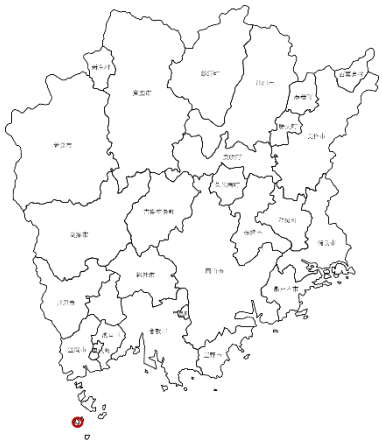
地域の概要

○人　　口　　87 人

○高齢化率　　75.9%

○集 落 数　　1 集落

（H31.1.1）



取組の経過

小・中学校が閉校・休校となり、一気に高齢化率があがった。高齢者が高齢者の面倒をみるという構図となっている。こうした中、少しでも住みよい島にするため、自治会組織をまちづくり協議会として位置づけ、地域と行政がお互いに情報を共有しながら取り組んでいます。

推進組織

飛島自治振興会

地域の特徴

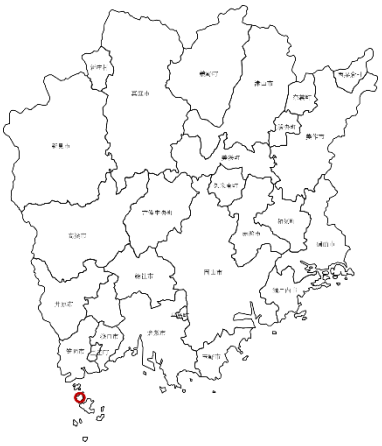
飛島地区では、人口は約９０名ですが、小・中学校が閉校となり、子どもがいない島となり、笠岡諸島の中でも、高齢化率が一番高くなっています。限られた人材の中で、島民自らが考え、助け合いとつながりを築いています。

Ｈ３０年度の主な取組

・移動困難な高齢者等の足を確保するため車両を運行したり、健康増進及び老化防止を図るため機能向上トレーニングやサロンを開催しています。
・島内に自生している椿の種子から椿油を精製し、特産品として販売しています。
・観光ＰＲ事業として椿まつりを島民や学生、島外ボランティアと協働して開催しています。

笠岡市 「高島（たかしま）」の取組概要

地域の概要



○人　　口　　82 人

○高齢化率　　64.6%

○集 落 数　　１集落

（H31.1.1）

取組の経過

平成２２年１０月には、地域のまちづくりを支援するため、市職員３名が地域担当職員として高島に配置されました。地域と行政がお互いに情報を共有しながら、身近で強い信頼関係を築き、協働で地域のまちづくりを進めております。

また、平成２４年には「高島まちづくり協議会」を設置しました。

推進組織

高島まちづくり協議会

地域の特徴

高島地区では、１００名足らずの人口で、高齢化が進む中、島民自らが考え行う様々な活動を通じて、助け合いとつながりを築いています。

Ｈ３０年度の主な取組

○婆―ちゃるショップ運営事業

島内の商店がなくなり、また、直接陸地部まで買い物に行くことが難しい高齢者のために、買い物代行活動を数年前から事業化しており、現在も「婆―ちゃるショップ」を月３回実施しています。

注文した商品については、回漕店まで取りに来てもらいます。それにより島民のコミュニケーションが図られ、交流の場としても利用されています。

○あじさいロード（花の名所づくり）事業

今年度は、今まで植樹したあじさいの肥料やり、剪定や定期的な水やりを行いながら生育を見守っています。

植樹をしたあじさいが色鮮やかに王泊地区遊歩道や子妊み石付近の山道を彩り、観光名所の１つとなっています。

高梁市 「備中町西山」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　206 人

○高齢化率　　52.6%

○集 落 数　　11 集落

（H31.12.31）

取組の経過

西山地域では、高原特有の気候を活かしたトマト・ピオーネが特産品であり、特にトマト栽培では、旧備中町時代に住宅付き営農団地として整備した「山光園」があり、高梁管内のトマト生産をけん引していますが、地域全体では、高齢化、過疎化が進み農業を中心とした産業の維持も年々難しくなっています。

こうした中、平成２５年に西山コミュニティ協議会において、これからの地域づくりの方向性を模索するため、中学生以上の全住民を対象としたアンケート調査を実施し、話合いを進めた結果、地域の維持・存続のため新規就農者等のＵＩＪターン者の受入れを地域の重点課題と定めて、その体制整備に着手しています。

推進組織

西山コミュニティ協議会

Ｈ３０年度の主な取組

○夏祭り in 西山高原 2018

帰省客も多いお盆の時期に、毎年夏祭りを開催しています。ものまねショー、備中太鼓など様々なパフォーマンスで会場が一つになり、夏祭りを開催しました。

最後に行った花火とレーザーショーは当日最高の盛り上がりとなりました。

備前市 「三国（みくに）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　211 人

○高齢化率　　52.3%

○集 落 数　　8 集落

（H31.1.1）

取組の経過

備前市の北部（旧吉永町）に位置し、西は美作市、和気町、東は兵庫県と接しています。

ＪＲ山陽本線吉永駅から北へ約１５～２０キロ、八塔寺川の上流に広がり、大半が標高約400ｍの高原地域です。八塔寺ふるさと村には、茅葺屋根の民家が点在し、のどかな日本の原風景が広がっています。

近年、過疎化・高齢化が進み、地区の行事や共同作業が困難となってきたことや、有害鳥獣（鹿やイノシシ）の被害が大きいため、「おかやま元気！集落」として対策に取り組んでいます。地区に移住した地域おこし協力隊員と協力し、有害鳥獣の駆除や耕作放棄地を活用した特産品の開発、八塔寺ふるさと村を中心とした観光振興などを検討しています。

推進組織

三国地区振興協議会

地域の特徴

自然を生かし、住みよい地域づくりと、ふるさとへ若者を呼び返す施策の推進

H30 年度の主な取組

○地域交流事業

４月に「八塔寺ふるさと村春祭り」、１１月に「三國渓紅葉まつり」を開催し、外部からの関係人口、交流人口の増加を図るためのイベントを地域住民と共に行いました。

○特産品の開発

地域おこし協力隊員と協力して、耕作放棄地を活用しにんにく・さつまいも・ブルーベリー等を作付・収穫。にんにくを加工した黒ミクにんにく、備前焼の破片を使った備前焼いもは特産品として定着しつつあります。

さらなる販路拡大を図るため、備前焼いもを二次加工した「八塔寺★いも（干し芋）」を、また新たに甘酒用に、緑玄米（アケボノ米）の栽培を行い、新規特産品の開発も行っています。

西粟倉村（おおがや）「大茅地区」の取組概要

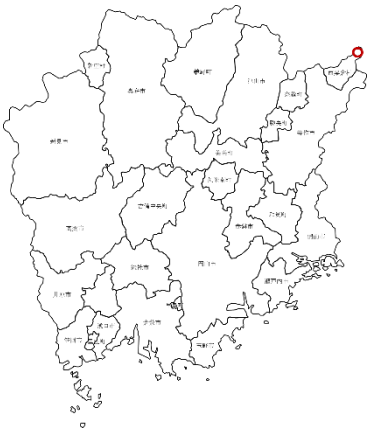
地域の概要

○人　　口　　188 人

○高齢化率　　44.1%

○集 落 数　　4 集落

（H31.1.1）



平成３０年４月　芝桜

取組の経過

西粟倉村には１２の行政区が自治組織として機能しています。どの地域も自治意識は旺盛ながらも人口減少と高齢化の進展と共に様々な困難が生まれてきています。大茅地域はかつて、最も人口の多い地区でしたが、大幅な人口減と高齢化に危機感を持っていました。自治会内の組織４カ所のうち１カ所は特に高齢化と人口減が激しく、単独の地域の維持が難しい状況にあります。

そのような中、平成２６年度に自治会全体の結束を高め、地域活性化の一助とすべく、行政に頼ることなく地区の住民の手で、雪の多い地域性を活かしたイベントを村内外に呼びかけて実施しています。そして平成２７年度に大茅地区活性化協議会を設置し、１０年先に予想される高齢化に対して、「やるなら今」と「花と文化の心ゆたかなふるさとつくり」を目指して活動を始めました。

推進組織

大茅地区活性化協議会

地域の特徴

西粟倉村の１／３の面積を持つ大茅地区は「若杉天然林」「１,１００ｍの高原　ダルガ峰」「県下３位の駒の尾山」「大海里川滝群」等の本物の自然と祖先より引き継がれてきた文化遺産を有し、これらを生かした取組を始めています。

Ｈ３０年度の主な取組

○ふれあい農園ジャガイモ植付　秋野菜植え付け、収穫（I ターン者対象）
○芝桜一般公開開始（4/15～5/5）　芝桜祭（4/29）　期間中３０００人弱来場
○芝桜植付　春２回（岡大生、一般ボランティア）
○芝桜植付　秋　一宮高校「社会貢献活動」
○ヒルクライム　「おもてなし」６月、９月
○大茅区有文書デジタル化開始　元禄～明治１０年位を対象に６０００枚撮影（継続中）
○農マル園芸「おおがや米」販売開始　ふるさと納税でも取り扱い開始
○さと×まちフェスタ　参加
○芝桜Ａ４３つ折りパンフレット作成（５０００部）
○芝桜トイレ建築
○芝桜管理　周年（開花後剪定、除草、イノシシ、鹿対策、雪対策）
○定例会（月１回）

西粟倉村 「知社（ちしゃ）地区」の取組概要

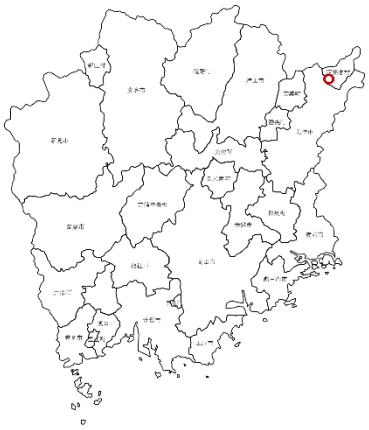
地域の概要

○人　　口　　41 人

○高齢化率　　58.5%

○集 落 数　　2 集落

（H31.1.1）



取組の経過

西粟倉村には１２の行政区が自治組織として機能しています。どの地域も自治意識は旺盛ながらも人口減少と高齢化の進展と共に様々な困難が生まれてきています。知社地区は１２地区の中でも最も戸数が少なく、高齢化が進んだ地域として早くから危機感を持っていました。行政に頼るばかりでなく、もう一度地区の住民の手で地域を盛り上げていこうという機運が高まってきており、各種の団体と連携し、様々な地域活性化に向けた取組を行っています。平成２７年に知社村活性化協議会を設置し、地域づくりを推進しています。

推進組織

知社村活性化協議会

地域の特徴

各種団体と連携した交流の村

Ｈ３０年度の主な取組

○交流イベントの開催

地区の公民館でクリスマス会などの交流イベントを実施しています。

知社川でお盆の恒例行事、ヒラメ(アマゴ)のつかみ取りの実施し、村内外から多くの参加者がありました。

○集落やすらぎ施設の充実

岩滝神社をやすらぎの場と位置づけ、多くの方との交流の場として、協議会で公園化を行っています。

○空白地有償運送の充実

○河川愛護、道路愛護で岡山大学や鳥取大学の学生ボランティアに参加していただき、環境整備を行いました。

真庭市 「樫邑（かしむら）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　459 人

○高齢化率　　44.0%

○集 落 数　　15 集落

（H31.1.1）

取組の経過

この地域には、「樫の木会」という若者から年長者まで幅広い年齢層で組織する任意の住民団体があり、「上野（うえの）こうげ」という草原で、菜の花を育て菜種油を生産する取り組みが行われています。広域なエリアで助け合いながら、移住者の受け入れや特産品販売による自主財源の確保などの取り組みを行い、自立した地域活動が行えるような組織づくりへと転換しつつあります。

推進組織

樫の木会

地域の特徴

樫邑地域は、岡山県三大河川の一つ旭川の源流域にあたり、緑豊かで水のきれいな地域です。古くから三椏（みつまた）栽培が盛んで、地域の特産として「樫西和紙」があります。また、地元の樫邑小学校は、全校児童１３名であり、少子化が進む地域です。

Ｈ３０年度の主な取組

○かしむら菜種油事業

菜種「ななしきぶ」から菜種油を搾り、地域の特産品にして自立した地域となるようチャレンジしています。種まき、刈り取り、選別もほとんど手作業で、農薬も肥料も使わずに栽培し、焙煎や搾油まで実直に作りあげた「かしむら菜種油」で揚げた天ぷらは、市販の油とは違い、口に残る油っこさがなくサクッと揚がり絶品です。

○かしむら遊び隊

上野こうげの真向かいにあるどんぐり広場で子供たちを対象に自然の中にあるものを使って、自然の中で遊ぶイベントを開催しています。樫邑以外の子供たちも参加して、楽しく遊んでいます。

○かしむら円卓会議

地域の有志で、樫邑の未来を考える話し合いをしています。ゆるくつながった人同士が集まり、地域でできること、やってみたいこと、ワクワクしながら考えています。ここから新たな動きも起きつつあります。

美咲町 「北和気（きたわけ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,147 人

○高齢化率　　36.5%

○集 落 数　　51 集落

（H31.1.1）

取組の経過

北和気地区は、美咲町の北東部に位置し、集落は、吉井川支流の甲和気川沿いに形成された平坦地域と標高２５０m前後の起伏の激しい山脈の丘陵地に立地しています。１２０ｈａの農地はあるものの後継者不足から、地元農事組合法人が集積し水田を守る一方、和気山を中心とした酪農、養豚も営んでいる中山間地域です。平成５年、小学校の統合により、地域交流の中心を成していた北和気小学校が廃校となりました。旧北和気小学校のグラウンドと屋内体育館は残され、校舎跡地にコミュニティセンターと郷土資料館が建設され、現在のまちづくり活動の拠点施設となっています。

推進組織

北和気コミュニティ推進協議会

地域の特徴

吉井川支流の甲和気川沿いに形成された平坦地域と標高２５０m前後の起伏の激しい山脈の丘陵地で水田農業や酪農が行われている。

Ｈ３０年度の主な取組

伝統工芸の継承や各種交流イベント活動により、地域の活性化を図っています。

○拠点施設を活用した伝統工芸の継承・イベント活動等

北和気郷土資料館を拠点に、地域発祥の「百々人形」の継承活動として、地元はもちろん町外への出前講座など積極的に取り組んでいます。

○地域全体の交流活動

以前から続いている納涼祭や産業文化祭など、各世代が集い、交流できる場として盛大に開催しました。

○地域の魅力拠点づくり事業

旅行会社と連携して体験ツアーを実施し、伝統工芸・トレッキング・農業体験など地域の魅力を体感していただき、活力ある地域づくりに取り組みました。

美咲町（みなみわけ）「南和気地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　703 人

○高齢化率　　36.7%

○集 落 数　　33 集落

（H31.1.1）

取組の経過

南和気地区は、美咲町の東部に位置し、集落は、乙和気川沿いに形成された平坦地域と美作市に向けた長内川沿いに形成されており、また、山間部には農地開発事業で整備された果樹団地があり、観光的農業拠点にもなっている中山間地域です。学校の跡地を利用した農村型リゾート「南和気荘」があり、そこを拠点に農村交流が進んでいます。

推進組織

南和気コミュニティ協議会

地域の特徴

Ｈ３０年度の主な取組

○イベント活動による広域的な交流

南和気荘を拠点に納涼祭や運動会、文化祭等を開催しました。

納涼祭では、若手役員が企画した「お化け屋敷」を取入れ、イベントへの若者参加を促した。

また、毎週土曜日に開店する米粉パン屋「学校のパン屋さん」は、子どもからお年寄りまで体験することができる工房として、地域内だけでなく地域外からも多くの方が訪れるなど、広域的な交流にもつながっています。

○地域活性化に向けた人材育成等

地域活動の運営組織においては、各部門毎の役割を明確にするとともに、連携した活動ができる体制づくりを行うことで、継続的かつ広域的な地域運営を目指しています。

さらに、地域（集落）の課題解決に向けた研修を開催しました。

備前市 「東鶴山（ひがしつるやま）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,448 人

○高齢化率　　50.0%

○集 落 数　　21 集落

（H31.1.1）

取組の経過

備前市の南西部に位置し、西は瀬戸内市と接する地域で、鶴海（つるみ）と佐山（さやま）の２地区からなり、約８０%が山地です。鶴海地区は、ブルーライン鶴海インターから海沿いに広がり、佐山地区にはのどかな田園風景が広がっています。地区内には、柴田錬三郎生家、りおう山、菖蒲園、五本桜などの観光資源があり、イチジク、ぶどう、桃などの果物が栽培されています。

少子高齢化が進み、空き家や耕作放棄地が増加し、山林も手入れが行き届いていないのが現状です。集落機能の維持・強化や地域の活性化を目的として、「おかやま元気！集落」に登録し、耕作放棄地や空き家の対策に積極的に取り組み、人口減を食い止めたいと考えています。

推進組織

東鶴山地区を元気にする協議会

地域の特徴

海あり山あり里ありの豊かな自然環境を生かした子育てのしやすい地域の形成や若年層の定住化を図るための活動を行っている。

Ｈ３０年度の主な取組

○景観保全

おもてなしの心を育てようと、年間を通じ県道沿いのガードレールの清掃活動を行いました。

また、地区の入口に「さやま」と花文字で植栽した芝桜や花壇の手入れを行いました。一年中美しい花で来られた人々の目を楽しませるよう取り組んでいます。

○地域交流事業・特産品の開発

ＪＡ事務所跡地を６次産業化を進めるため整備し、毎週金曜日に地区内で採れた作物を利用して試作品を作っています。毎月開催のふるさとサロンや６月に開催した「花ショウブ祭り」１１月に開催した「いも祭り」では、協議会が栽培した野菜や女性部が作る寿司・菓子等をふるまい大勢の人で賑わいました。これらの催しが地域の観光資源となるよう、花菖蒲園、栗園、竹林などの整備を積極的に行い、地域一体となって取り組みました。

真庭市 「社（やしろ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　218 人

○高齢化率　　51.8%

○集 落 数　　7 集落

（H31.1.1）

取組の経過

真庭市北部（旧湯原町）に位置する山間部で、自然豊かな地域です。また平安時代に朝廷から重視された格式の高い神社「式内社」については、美作地域に11社あるうちの8社がこの社地域にあるほか、中世の建造物とされる市指定重要文化財の大御堂では、今でも五穀豊穣等を祈念する百万遍が続けられているなど、歴史的資源を豊富に有する地域です。

そのような地域で、コミュニティの継続と歴史的資源を守ることを目的として「社地域振興協議会」を設立しました。この協議会が母体となって事業を行っています。

推進組織

社地域振興協議会

地域の特徴

歴史的地域資源の価値を改めて認識することから始め、活用方法の模索やさらには他分野の地域資源と組み合わせて外部への魅力発信を行い、交流人口の増加につなげ地域全体の活性化につなげている。

H30 年度の主な取組

○中世式内八社案内ガイドの実施

式内八社をはじめとする地域の歴史を知るために社地域へ訪問される方に対して、ボランティアガイド開催。例年学校での座学のみだった地元の湯原中学校生徒にも、現地解説を行いました。また、交流人口増加のみならず外貨獲得のため、真庭観光局と連携した有償案内ガイド企画を立ち上げ、秋から冬にかけて 6 回開催しました。

○竹灯篭づくりワークショップ、「やしろ竹あかり」の開催

山を荒らしている放置竹林の竹を活用して、大晦日に佐波良神社周辺に竹灯篭を灯すイベント「やしろ竹あかり」を開催しました。3 年目ということもあり、地域外からも大勢のお客様が訪れました。

○大学生ボランティアの受け入れ

岡山大学をはじめとする県内の大学に声かけを行い、10/9 開催の社祭りで神輿を担いでもらうなどの交流を行いました。また、大晦日の「やしろ竹あかり」の竹灯籠の制作を岡山商科大学、岡山県立大学の学生と一緒に行い、岡山県立大学については、今回初めて挑戦した LED で点灯する竹灯籠のデザイン制作でも協力してもらいました。

○SDGs への取り組み

真庭市の SDGs を推進する事業の中で、これから社地域で、持続可能な暮らしをどのようにつくっていくかについての意見交換会を行ったほか、豊かな水資源の活用や社の特色のある農産品（かつては社地域でも作付されていた餅米「やしろもち」の復活や、竹粉を使うことで付加価値を付けた農産品）の開発に向けた勉強会などを行いました。

奈義町「小坂（おさか）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　113 人

○高齢化率　　49.6%

○集 落 数　　6 集落

（H31.1.1）

取組の経過

小坂地区は奈義町の北東部に位置し、山間地に囲まれ、清流馬桑川沿いに集落、田畑が点在する地域です。

かつてはタケノコの出荷が盛んに行われていましたが、高齢化と竹林の荒廃による生産意欲の低下に伴い、年々減少傾向にあります。

近年、地区と地元婦人会が連携し、タケノコをはじめとする豊かな地域資源を活用し、交流人口の増加、地区住民の活力向上を図るため、タケノコ祭りなどのイベントの開催やタケノコの成長促進のために間伐した竹を竹炭として販売、炭焼体験の実施など、積極的に取組みを行っています。

今後も地区、婦人会、地元消防団などが一体となって魅力あるイベント展開、新たな特産品の開発を行い、地域内外に広く「小坂地区」をＰＲしていきます。

推進組織

小坂地区活動組織

地域の特徴

「タケノコ」「竹炭」など豊かな地域資源を活かし、都市部との交流を図るイベントや特産品の開発に取組んでいます。

Ｈ３０年度の主な取組

「タケノコまつり」

４月２９日に町内外から約３０名に参加いただき「タケノコまつり」を開催しました。タケノコ掘り体験を行い、地元婦人会が丹精込めて作ったタケノコごはんや煮物を振る舞いました。

「新たな特産品の開発」

たけのこの水煮や小分けした消臭用竹炭などの新たな加工品の開発を実施し、菜の花まつりやさとまちフェスタ等で試験的に販売しました。

矢掛町 「羽無（はなし）集落」の取組概要

54

地域の概要

○人　　口　　50 人

○高齢化率　　72.0%

○集 落 数　　2 集落

（H31.1.1）

取組の経過

矢掛町の北部に位置し、標高２００m程度の位置にある中山間地域です。地域は山に囲まれた盆地で、中央に羽無川が流れています。地域外へのアクセスは、羽無川沿いと南側の山越えの２本の町道のみであり、地域が独立した地形になっています。

羽無集落の主要な産業は農業であり、米を中心に野菜や果樹の栽培も行われています。また、集落にある吉祥寺には海棠があり、春には花が咲き、吉祥寺境内では地域住民により「海棠まつり」が開催され、町内外から多くの観光客が訪れます。

羽無集落は住民が自助と互助の意識を持ちながら集落を維持しており、日々の生活から「海棠まつり」などのイベントまで集落の住民が協力し、実践しています。そのため地域のつながりは強く、少子高齢化が深刻な状況の中で、課題解決に集落で取り組んでいます。集落全体で住民の生活を支え、地域が一体となって知恵を出し合い、観光客の誘致や他の集落や団体、大学生、地域おこし協力隊等と連携しながら、新たな取り組みを実践しています。

推進組織

羽無自治会，桃源郷はなしの里（地域住民で組織する団体）

地域の特徴

地域住民による特産品開発や大学生の交流受け入れを積極的に実施しており，若者や外部からの訪問者を受け入れながら，集落の課題解決策を検討・実施しています。また，平平成３０年３月４日に交流体験施設の「憩いの館」をオープンしました。

Ｈ３０年度の主な取組

休憩施設を本格的に稼働していく中で，田舎食堂経営においては、毎週土日、祝日営業を行い、季節に応じて地元食材を使用したランチや軽食を提供しました。さらに集客のための様々な体験型イベントとして、海棠まつり、よもぎ餅づくり、番茶づくり、さつまいも掘り、冬の星空観察会、杵つき餅づくり、毎月恒例！窯焼きピザづくり、原木椎茸菌打ち等を企画実施しました。

井原市 「大江（おおえ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,919 人

○高齢化率　　35.8%

○集 落 数　　36 集落

（H31.1.1）

取組の経過

井原市の西南に位置し、福山市神辺町に隣接する地域で兼業農家と会社員の多いベッドタウンです。大江地区の住民が自ら郷土の将来像を考え、その実現に向けて行動するとともに協働のまちづくりを推進することを目的に協議会を設立しました。

実施したアンケートでは、地域の特産品を開発から販売へとつなげる六次産業化で働く場所をつくり、子供達が大江に住みたいと思える町づくりが優先課題として挙がりました。

一部の人たちだけが関わるものではなく、地域住民一人ひとりが地域に誇りと自信を持ち、ともに協力し合いながら地域づくりに参加して、住民一丸となってより良い大江地区を築くために取り組みを行っています。

推進組織

大江まちづくり協議会

地域の特徴

大江の特産品として、ウコン・ニンニクの生産、さらに六次産業化としてウコンの粉末加工や黒ニンニクを生産・販売しています。町内には、老いても嫁の手を煩わすことなく、健康で幸せな生涯を全うできるという霊験もある「嫁入らず観音院」があり、ここを拠点とした地域活性化の取り組みを行っています。

Ｈ３０年度の主な取組

嫁入らず観音院には春秋の大祭を中心に、市内外から多くの参拝者が訪れるが、隣接する飲食・土産物店が閉店したこともあり、参拝者は減少傾向となっていました。

そこで、嫁入らず観音院で平成 28 年 12 月に、地元住民が運営する青空市「観音マルシェ」を新しい試みとしてスタートさせ、月例祭（毎月 17 日※）の日に実施しており、常設も視野に入れて活動しています。

※嫁入らず観音院 春秋の大祭月は、大祭日（春分・秋分）に準じます。

「観音マルシェ」では、市内外の１０数店が軒を並べ、大江で特産化を進めているウコンの加工品や黒ニンニクをはじめ、新鮮な野菜や新米、手作りスイーツ、郷土の野菜を使った猪うどん、雑貨などの販売を行っており、賑わいを取り戻せるよう、地域活性化に向けて取り組みを進めています。

奈義町 「上町川（かみまちがわ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　287 人

○高齢化率　　38.7%

○集 落 数　　5 集落

（H31.1.1）

取組の経過

中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度など活用し、農地保全や景観形成を地域全体で積極的に行っています。

一方で近年は少子高齢化の進行により、地区住民数が減少してきており、耕作放棄地の増加（H23 約 0.7ha⇒H28 約 3.4ha）や伝統的な祭事の衰退、担い手不足など、集落機能の維持が困難となりつつあります。

推進組織

上町川地区

地域の特徴

上町川地区は奈義町の最西に位置し、「黒ぼこ」と呼ばれる火山灰土を含む土壌が広く分布しており、この土は通気性や排水性が高く里芋栽培に適していることから粘り気が強く良質な里芋が栽培されています。

Ｈ３０年度の主な取組

＜黒ぼこさといもまつり＞

「黒ぼこさといもまつり」を開催し、地区内外から多くの方にご参加いただきました。

地区内の耕作放棄地を里芋のほ場として再生し、収穫した里芋を使った料理提供、レシピや取組内容の紹介を行いました。

＜イベントへの出店＞

１２月９日に岡山市で開催された「さとまちフェスタ」で芋煮や黒ぼこ里芋、地区で採れた野菜等を販売し当地区のＰＲを行いました。

奈義町「中島東（なかしまひがし）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　212 人

○高齢化率　　39.2%

○集 落 数　　7 集落

（H31.1.1）

取組の経過

中島東地区には弘化 3 年（1868）に建てられた、江戸時代の歌舞伎専用舞台「松神神社歌舞伎舞台」があり、昭和 38 年岡山県重要有形民俗文化財の指定を受けています。この歌舞伎舞台では、地元有志が発足した「松神座」が毎年四季の公演「春」として定期公演を行っており、各地の舞台が失われていく中、地区の人々の愛着と熱意により地歌舞伎の伝統文化が大切に受け継がれるとともに、子どもからお年寄りまで世代を越えた地区住民の交流の場となっています。また、地区外からも多くの観客が訪れており、交流人口の増加、地域の活性化にも寄与しています。

推進組織

中島東地区

地域の特徴

秋には奈義町文化センターで 2 日間の大公演、夏と冬には歌舞伎の PR と普及を図るため、県内外を公演するなど精力的に活動している。
しかしながら、近年は高齢化の進行や地域を担っていく若者の減少による後継者不足、舞台や小道具の老朽化などの影響で、伝統文化の衰退など地域社会の活力が低下しつつある。

Ｈ３０年度の主な取組

４月２９日、横仙歌舞伎四季の公演「春」を開催しました。地元松神座をはじめ、こども歌舞伎教室も演目を上演し、約４００人の来場者の方からは大きな声援と拍手をいただきました。

９月３０日に開催された秋の大祭の宵まつりで、地区内の小学生が奉納歌舞伎を披露しました。

子どもたちは、緊張しながらも日頃の練習の成果を十分に発揮し、舞台は大歓声に包まれました。

この取組みは今年度から初の試みで、横仙歌舞伎や地元地区のＰＲ、横仙歌舞伎の保存伝承のため、継続して行っていく予定です。

矢掛町 「江良（えら）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　499 人

○高齢化率　40.88%

○集 落 数　9 集落

（H31.1.31）

取組の経過

江良地区は矢掛町の南西部に位置し、田園風景の広がる自然豊かな山間地域です。東西には小田川が流れ、南部には、矢掛町を一望できる伽藍山があり地域のシンボルとなっています。江良地区は山間地域ですが、比較的生活環境の整った地域です。しかし、高齢化率は４０％以上となっており、急速に高齢化が進んでいます。

輝け！江良元気会は、岡山大学の学生や留学生の交流を通じたグローバルな地域づくりを目指して発足しました。地域の諸団体と協力して、地域の活性化や生活しやすさの向上のために、若い世代を中心に活動しています。

推進組織

輝け！江良元気会

地域の特徴

大学生や外国人留学生の受け入れを積極的に行い、岡山大学生との交流などを通してグローバルな町づくりを展開するため、国際的センスを備えた人材の育成を目指しています。

Ｈ３０年度の主な取組

（１）人と文化の交流及びグローバル化の取組として、岡山大学の留学生と地域住民が力を合わせて、田植えや稲刈りなどを実施しました。また、豪雨災害では岡山大学生の力を借りて復旧作業を行い、交流を深めました。

（２）特産物の開発として、岡山大学の先生に指導を受け、ステビアの試験栽培を実施しました。

（３）安心して活動できる地区づくりとして、移動困難者の移動支援に関する講習会を開催しました。

（４）江良地区の宝物探しとして、岡山大学生が地域の魅力を調査しました。

久米南町 「下籾（しももみ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　86 人

○高齢化率　　39.5％

○集 落 数　　6 集落

（H31.1.1）

取組の経過

平成22年　住民会で移住と空き家確保の取り組み開始
（家主との交渉、町空き家バンクの利用推進）
平成23年　東日本大震災からＳＮＳを通じた出会いにより移住者増加
住民会で移住者の生活をサポート（農地の確保支援など）

推進組織

○名　　称　　楽じゃ！もむら暮らし
○代表者名　　宮本　隆治（下籾住民会長）
○設立年月日　　平成30年4月

地域の特徴

「下籾地区」は、標高300～350ｍにある集落で、日当たりと景観は格別である。しかし、人口の域外流出により過疎高齢化の勢いが加速し、昭和45年に170人いた人口は平成17年には95人にまで減少し、高齢化率は50％を超え、農業、地域の担い手がいなくなった。そんな中、集落内の自治会役員を中心に、平成22年から空き家確保と移住者支援の取り組みを開始した。平成23年の東日本大震災以降SNS等を通じた出会いがきっかけとなり、移住者が増加し、高齢化率は40％にまで下がった。

しかし、過疎高齢化の解決に向けて未だ課題は山積しており、近年さらに増えてきた空き家の流動化や、地域全体で移住促進への合意、域外流出者のUターン促進などに向けて、地域が主体的に移住者と先住者での受け入れ態勢の整備を目指した取り組みを行っている。

平成３０年度の取り組み

○おかやま元気！集落への登録
○住民意識調査及び空き家調査の実施
○町外での地域ＰＲ（下籾集落展）
岡山ロッツ無印良品３回/年
○下籾地域での地域交流事業
（田植え体験、稲刈り体験、餅つき体験）
○移住体験ツアーの受入

奈義町「馬桑（まぐわ）地区」の取組概要

60

地域の概要

○人　　口　　76 人

○高齢化率　　34.2%

○集 落 数　　5 集落

（H31.1.1）

取組の経過

馬桑地区は、岡山県の最北部、鳥取県智頭町での県境に位置する渓谷地です。

中国山地の分水嶺から湧出する冷涼な流水に育まれた「天然わさび」が渓谷の随所に生育し、この天然わさびの本来持つ辛みと旨味を生かした「わさび漬け」は自家消費やお土産品などの貴重な特産品として、先人から当該地区に伝承されてきました。しかしながら、近年の温暖化に伴う集中豪雨や栽培農家の高齢化などにより、天然わさびは根こそぎ流出し皆無に近い状況となりつつあることから、平成２５年度からは、地区有志を中心に近隣高校と連携し、「わさび田復活プロジェクト」として、わさび苗床の整備や苗の定植などの取組みを行っています。

こうした取組みに加え、わさび苗床の拡大やわさび漬けのブラッシュアップ、新商品の開発などを行っていく予定です。

推進組織

馬桑地区

地域の特徴

馬桑地区は奈義町の最東に位置し、周辺を山地に囲まれ、南北に清流馬桑川が流れる自然景観豊かな中山間地域です。

Ｈ３０年度の主な取組

○わさび苗床の維持、拡大

「わさび田復活プロジェクト」として近隣高校と連携し、わさび苗床を復活させました。この取組みを継続して行っていくのと併せて、新たな苗床を造成しました。

▲わさび田復活プロジェクト

○わさび漬けのブラッシュアップ、新商品化

今後は、古より伝わる「わさび漬け」を、専門家のアドバイスをもとに、ブラッシュアップや新商品の開発を行うとともに、地区外への販売体制を確立させていきます。

▲新たなわさび苗床